預言者伝（スィーラ）

第 20 巻

マッカ征服（一）

破られた盟約、ハーティブの手紙、ザフラーンの火



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 20 巻

マッカ征服（一）

破られた盟約、ハーティブの手紙、マッル・アッ＝ザフラーンの火 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

إِذَا جَآءَ نَصْرُ ٱللَّهِ وَٱلْفَتْحُ

「アッラーの援助と勝利が来て、」

援助章 110:1

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

約束を果たし、しもべを助け、大きな流血なしにマッカを開いてくださったアッラーに讃えあれ。わたしたちの主君、預言者ムハンマド ﷺ に祝福と平安あれ。使徒は謙虚さゆえに頭を垂れて生まれ故郷の町に入られました。またその家族と教友たちにも祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 20 巻は、マッカ征服の物語の第一部です。クライシュ族の同盟者が破った盟約、ハーティブ・ブン・アビー・バルタアの手紙、ラマダーン月に出発した一万の軍勢、そしてマッル・アッ＝ザフラーンの数々の火を語ります。この知識が「役に立つ知識」となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間や動物は描かれていません。描かれているのは、**夜の広大な砂漠の谷**で、**暗い花崗岩の丘**に囲まれています。谷底一面には**何千もの小さなたき火**がオレンジ色に輝き、その上には**星空**が広がり、東の地平線は**夜明けの光**に染まり始めています。

その谷はマッル・アッ＝ザフラーンを思い起こさせます。マッカから数マイルの所で、マッカ征服の前夜に一万のムスリム軍が野営した場所です。様子を探りに出たアブー・スフヤーンはその数々の火を見て驚き、「まるでアラファの火のようだ」と言いました（『サヒーフ・ブハーリー』4280）。地平線の夜明けの光は、明けようとしている新しい日 — アッラーがカアバを尊ばれる日 — を象徴しています。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

マッカ征服（一） — 序論
1. フダイビーヤから二年 — 図；スィーラ書
2. ヘラクレイオスの前のアブー・スフヤーン — 『サヒーフ・ブハーリー』7
3. フザーア族：ハーシム家の古い同盟者 — スィーラ書
4. ワティールでの夜襲 — 図；スィーラ書
5. 破られた盟約 — 悔悟章 9:12–13；『サヒーフ・ブハーリー』3188
6. アムル・ブン・サーリムの訴え — スィーラ書
7. マディーナのアブー・スフヤーン — スィーラ書
8. ウンム・ハビーバ：アビシニアからの妻 — 『サヒーフ・ムスリム』728；スィーラ書
9. 約束を守り、裏切りに報いる — 蜜蜂章 16:91；戦利品章 8:58
10. 秘密裏の準備 — 『サヒーフ・ブハーリー』3030；スィーラ書
11. アッラーの使徒ﷺの戦いの作法 — 雌牛章 2:190；『サヒーフ・ムスリム』1731
12. 髪の中の手紙 — 『サヒーフ・ブハーリー』4274
13. ハーティブ・ブン・アビー・バルタアとは誰か — スィーラ書；第 17 巻
14. 試問される女章 — 試問される女章 60:1、60:8
15. バドルの人々と赦しの門 — 『サヒーフ・ムスリム』2495
16. ラマダーン月の一万の軍勢 — 『サヒーフ・ブハーリー』4276；図
17. 旅の途中の斎戒 — 『サヒーフ・ムスリム』1114；雌牛章 2:185
18. 「望む者は斎戒せよ」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4279
19. ラマダーン：勝利の月 — 雌牛章 2:185
20. 帰るべき所へ — 物語章 28:85；『サヒーフ・ブハーリー』4773
21. 聖域のためのイブラーヒームの祈り — イブラーヒーム章 14:35、14:37；イムラーン家章 3:96
22. アル＝アッバースの移住 — スィーラ書
23. かつて傷つけた二人の親族 — ユースフ章 12:92；スィーラ書
24. マッル・アッ＝ザフラーンの火 — 『サヒーフ・ブハーリー』4280；図
25. アブー・スフヤーンの入信 — 『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書
26. ハキーム・ブン・ヒザーム：無駄にならない善行 — 『サヒーフ・ブハーリー』1436、1472
27. 次々と続く部隊 — 『サヒーフ・ブハーリー』4280
28. 「アッラーがカアバを尊ばれる日」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

29. サアド・ブン・ウバーダ：アンサールの指導者 — 『サヒーフ・ブハーリー』2756；スィーラ書
30. 第一部の物語の典拠 — 表
31. 征服の前と後 — 鉄章 57:10；『サヒーフ・ムスリム』2541
32. 第一部の人物 — 表
33. マディーナからマッル・アッ＝ザフラーンまでの地名 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4275
34. 第一部から得られる法規定 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』3007
35. 第一部の年表 — 表
36. マッカ征服（一）に関するよくある質問 — 12 の質問
37. 教訓と結び
参考文献
支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

マッカ征服（一）

『預言者伝』第 15 巻は**フダイビーヤの和約**を語りました。ムスリムとクライシュ族の間の十年間の休戦です。アッラーはそれを「**明白な勝利**」と名づけられました（勝利章 48:1）。二年後、その名の英知が明らかになります。和約はクライシュ族自身によって破られ、マッカの門は大きく開かれたのです。

この**マッカ征服** — マッカの町の開放 — の物語は、一冊の本には大きすぎます。この第 20 巻は**第一部**です。盟約がどのように破られたか、アッラーの使徒ﷺがどのように秘密裏に軍を準備されたか、ハーティブ・ブン・アビー・バルタアの手紙の話、ラマダーン月の一万の軍勢の行軍、そしてアブー・スフヤーンがイスラームに入信したマッル・アッ＝ザフラーンの夜を語ります。**第二部**（第 21 巻）では、征服の日そのものを語ります。

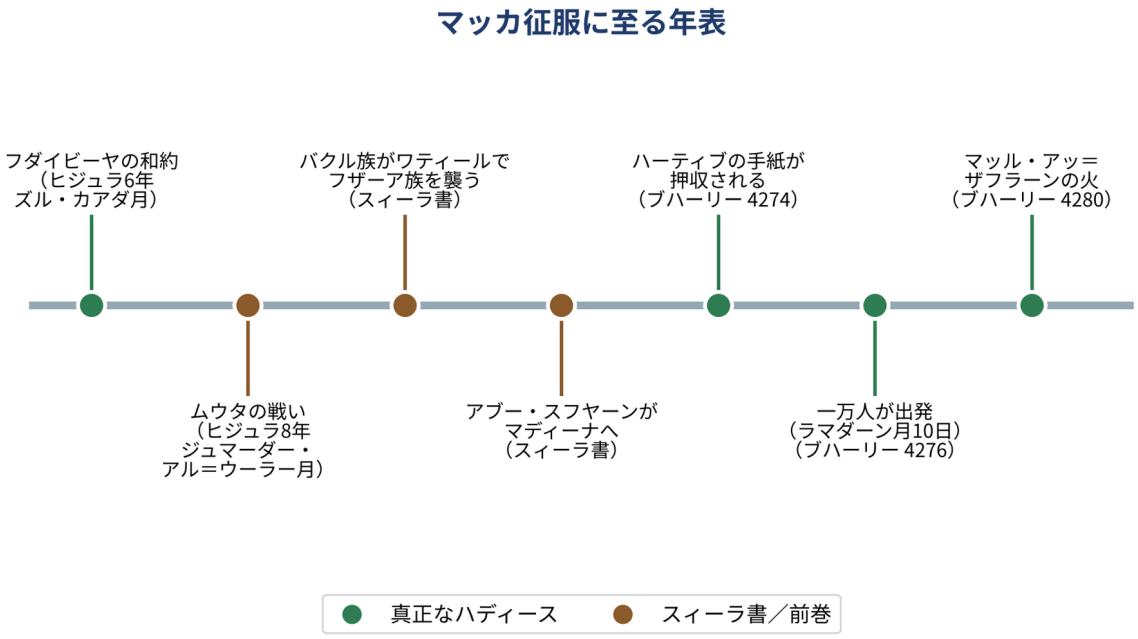


図 1：マッカ征服に至る年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報 — ワティールでの襲撃の詳細、アムル・ブン・サーリムの詩、マディーナでのアブー・スフヤーンの会話など — は、その多くが連続した伝承経路なしに伝えられているため、茶色の「スィーラの注」の枠に入れている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

フダイビーヤから二年

フダイビーヤの和約にはいくつかの条件がありました。その中で最も重要なもの ― 当時は小さく見えましたが ― の一つは、アラブの諸部族がどちらの側とでも**同盟を選ぶ**自由でした。一方の側と同盟した部族は、和約においてその側の一部とみなされました。

スィーラの注：フダイビーヤの和約における同盟の条件

イブン・イスハークは、和約の内容に次のものがあったと伝えています。「**ムハンマドとの盟約と約束に加わりたい者は加わってよい。クライシュ族との盟約と約束に加わりたい者は加わってよい。**」そこで**フザーア族**はアッラーの使徒 ﷺ との同盟を表明し、一方**バクル族**はクライシュ族と同盟しました。

この条件の文言は**スィーラ書の伝承**です。フダイビーヤに関する真正なハディース（その中に『サヒーフ・ブハーリー』2731）は、休戦やマッカから来た者の送還など、他の条件を詳しく述べています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）― マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

二年近くの間、この和約はかつて味わったことのない**平和**をもたらしました。人びとは恐れることなく行き来し、語り合い、クルアーンを聞くことができました。イマーム・アッ＝ズフリーは、フダイビーヤ以前のイスラームにおいてこれより大きな勝利はなかったと述べています。この二年間にイスラームに入信した人の数は、それ以前の数に匹敵するか、それを上回ったからです。その証拠に、フダイビーヤでは 1,400 人、マッカ征服のときには **10,000 人**でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

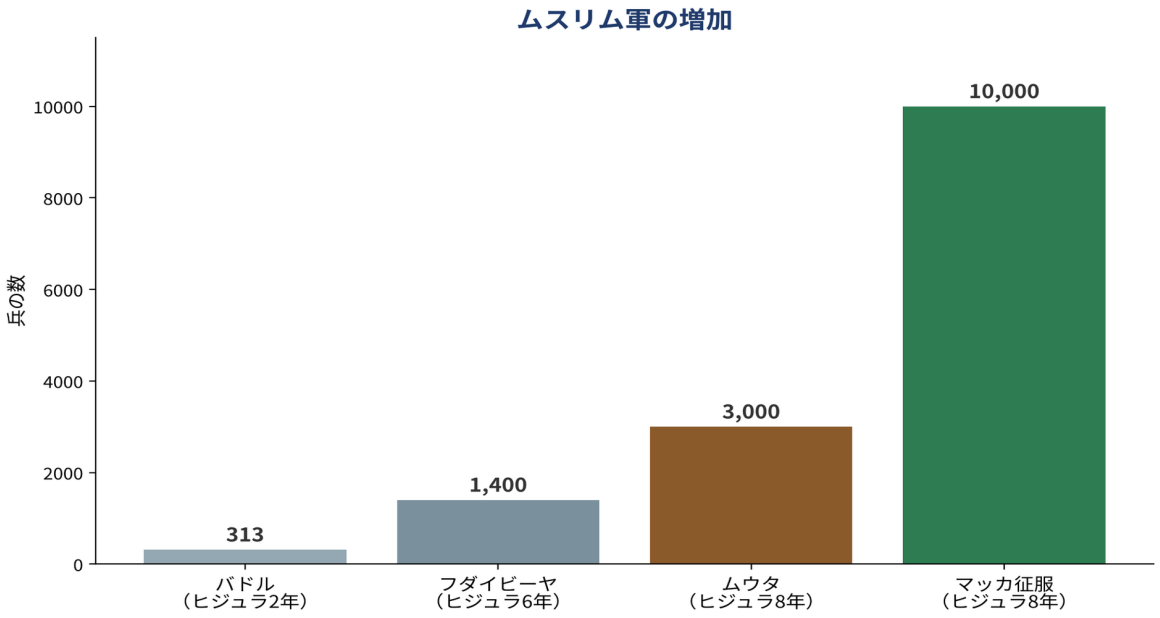


図 2：バドルからマッカ征服までのムスリム軍の増加。

上の図は、ムスリムの本当の力が武器からではなく、**平和な環境で広まった宣教**から来たことを示しています。人びとが圧力なしにクルアーンを聞くことができると、多くの人がその真理に引かれました。これこそ、アッラーの使徒 ﷺ が一方的に見えるフダイビーヤの条件を受け入れられた英知です。平和は、剣では開けない道を開いたのです。

ヘラクレイオスの前のアブー・スフヤーン

フダイビーヤの休戦期間中、アブー・スフヤーン・ブン・ハルブはクライシュ族の隊商とともにシャームへ交易に出かけました。そこで、イマーム・ブハーリーが『サヒーフ』の冒頭のハディースに記録した出来事が起こります。アブー・スフヤーンは、アラブの地に現れた預言者について尋問されるため、イーリヤー（エルサレム）でローマ皇帝**ヘラクレイオス**の前に呼び出されたのです（『サヒーフ・ブハーリー』7）。アッラーの使徒 ﷺ からヘラクレイオスへの手紙の話は、第 17 巻で詳しく述べました。

ヘラクレイオスはいくつかの質問をしました。その家系、従う人びと、彼らが増えているか減っているか、そして彼が嘘をついたことがあるかどうか。それから尋ねました。「**彼は約束を破ったことがあるか。**」アブー・スフヤーンは答えました。「**いいえ。そしてわれわれは今、彼とある期間（の約束）の中にいる。その期間に彼が何をするかはわからない。**」アブー・スフヤーンは、彼を悪く言うために何かを差し挟めたのはそこだけだったと認めています。

歴史の皮肉を見てください。アブー・スフヤーンは、アッラーの使徒 ﷺ が**もしかすると**約束を破るかもしれないという疑いを起こそうとしました。しかし最終的に和約を破ったのは、アッラーの使徒 ﷺ ではなく、**クライシュ族自身の同盟者**であり、クライシュ族の有力者たちがそれを助けたのです。ヘラクレイオスはこう結論しました。「**使徒たちとはそのようなものだ。彼らは裏切らない。**」

ヘラクレイオスはまた言いました。「**おまえの言うことが本当なら、彼はわたしのこの両足の場所をも手にするだろう。**」アブー・スフヤーンは、ムハンマドの事柄は大きくなり、ローマの王さえ彼を恐れていると言いながら宮殿を出ました。同じ伝承の中で彼はこう言っています。「**わたしは、アッラーがわたしの心にイスラームを入れてくださるまで、彼が勝つと確信し続けていた。**」

この最後の言葉は、本書で語られる出来事への**最初の手がかり**です。確信の種はヘラクレイオスの宮殿でアブー・スフヤーンの心に植えられ、マッル・アッ＝ザフラーンのある夜、ムスリム軍の何千もの火を見たときに芽吹きました。教訓：**今日聞いた真理**は、何年も後に実を結ぶかもしれません。わたしたちの務めは、それを誠実に伝えることです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フザーア族：ハーシム家の古い同盟者

フザーア族はなぜアッラーの使徒 ﷺ を選んだのでしょうか。彼らとハーシム家の関係は、イスラームよりはるかに古いものでした。フザーア族はクライシュ族より前にマッカを支配しており、アッラーの使徒 ﷺ の祖父**アブドゥル・ムッタリブ**と同盟を結んでいました。

スィーラの注：フザーア族とアブドゥル・ムッタリブの古い同盟

歴史家たちは、アブドゥル・ムッタリブが父方のおじたちと争ったときにフザーア族に助けを求め、両者の間に同盟が結ばれたと述べています。フザーア族の一部は早くからイスラームに入信しており、この部族は**秘密を守る者**として知られ、ティハーマにおいてアッラーの使徒 ﷺ の秘密を守っていました。彼らの中のムスリムも非ムスリムも、使徒に心を寄せていたのです。

この情報は**スィーラ書**によるものです。真正なハディースでは、ブダイル・ブン・ワルカー・アル＝フザーイーがフダイビーヤのとき、クライシュ族の知らせをアッラーの使徒 ﷺ に伝える人物として登場します（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。これはフザーア族と使徒との良好な関係を示しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。
イブン・サアド『大列伝』。

一方、**バクル族** — とくにディール支族 — は、ジャーヒリーヤの時代から晴らされていない血の復讐を抱え、フザーア族と古くから敵対していました。フダイビーヤの休戦はその復讐心をしばらく抑えましたが、消されていない燠火はいつでも再び燃え上がりえます。

教訓：**古い忠誠と善行は決して無駄にならない。**アブドゥル・ムッタリブが築いた良い関係は、数十年後、その孫に忠実な同盟者という形で実を結びました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ワティールでの夜襲

ヒジュラ暦8年シャアバーン月、すべてを変える出来事が、マッカ近くの、**ワティール**と呼ばれるフザーア族の水場で起こりました。

スィーラの注：ワティールでの襲撃

イブン・イスハークは、**ナウファル・ブン・ムアーウィヤ・アッ＝ディーリー**がバクル族の一団とともに夜にワティールでフザーア族を襲い、何人かを殺したと伝えています。**クライシュ族は武器でバクル族を助け**、クライシュ族の有力者の一部も夜の闇に紛れてひそかに戦いました。フザーア族は聖域まで退きました。バクル族の中には「聖域に入ってしまったぞ！」と言う者もいましたが、ナウファルは聖域の神聖さを侮る言葉で答えました。

これらの詳細は**スィーラ書の伝承**です。歴史家たちが一致しているのは、クライシュ族の同盟者が、クライシュ族の助けを得て、アッラーの使徒 ﷺ の同盟者を襲い、それによってフダイビーヤの和約は**クライシュ族の側から破棄された**ということです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』。

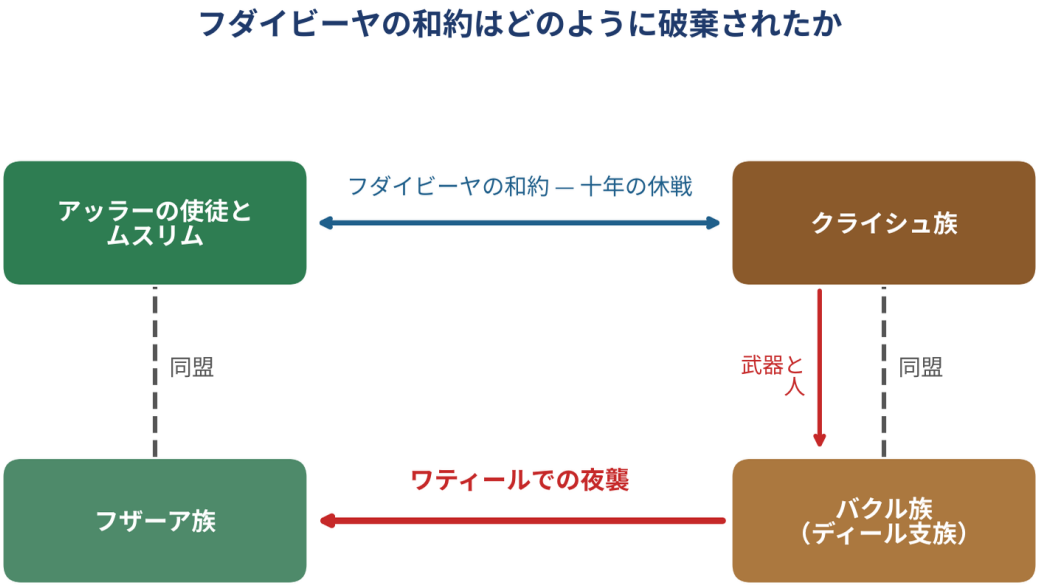


図 3：フダイビーヤの和約はどのように破棄されたか。

裏切りを始めたのは**クライシュ族の側**であり、ムスリムではなかったことに注目してください。二年近くの間、アッラーの使徒 ﷺ はすべての条件を守られました — アブー・ジャンダルとアブー・バスィールを送り返すという苦い条件さえも（第 15 巻）。今、和約はクライシュ族自身の手で引き裂かれたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

破られた盟約

クルアーンは、盟約を破る民についての規定を述べています。「**だがもしかれらが誓約の後にその誓いを破り……**」（悔悟章 9:12） — 『イブン・カスィール注釈』9:12。

そして次の節は、まるでクライシュ族をそのまま描いているかのようです。「**誓いを破り、使徒を追放しようと企て、しかも先にあなたがたを攻撃した民と、あなたがたはなぜ戦わないのか。**」（悔悟章 9:13） — 『イブン・カスィール注釈』9:13。

イブン・カスィールは、一部の学者がこの節を、クライシュ族がバクル族を助けてアッラーの使徒 ﷺ の同盟者フザーア族と戦わせたことによる盟約破棄に結びつけていると述べています。三つの特徴が挙げられています。誓いを破ること、使徒を追放しようと企てること、そして敵対を始めること — その三つともクライシュ族にありました。

イスラームにおいて約束を裏切ることは**大罪**であり、それを犯す者は審判の日に全人類の前で辱められます。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3188 番

حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ، عَنْ أَيُّوبَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ لِكُلِّ غَادِرٍ لِوَاءٌ يُنْصَبُ لِغَدْرَتِهِ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はこう仰せられました。「**すべての裏切り者（約束を破る者）には、審判の日、その裏切りのゆえに一本の旗が立てられる。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：スライマーン・ブン・ハルブ ← ハンマード・ブン・ザイド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』人頭税と休戦の書、裏切り者の罪の章、ハディース第 3188 番；ムスリム第 1735 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3188

このハディースの教訓

アラブの時代、何かを告知するときには市場に旗が立てられました。このハディースは、裏切り者の罪が**すべての被造物の前で**告げ知らされる様子を描いています。学者たちは、この裏切りの禁止は非ムスリムとの約束にも及ぶと説明しています — だからこそアッラーの使徒 ﷺ は、クライシュ族が敵であっても、決して先に裏切ることはされなかったのです。

アムル・ブン・サーリムの訴え

襲撃の知らせはすぐにマディーナに届きました。フザーア族は、同盟者に助けを求めるのに時間をかけませんでした。

スィーラの注：「主よ、わたしはムハンマドに呼びかける……」

イブン・イスハークは、**アムル・ブン・サーリム・アル＝フザーイー**が馬でマディーナへ行き、モスクに座っておられたアッラーの使徒 ﷺ の前に立ち、長い詩を朗誦したと伝えています。冒頭の数節の意味は次のとおりです。**「主よ、わたしはムハンマドに呼びかける ― われらの同盟と、その父祖の古い同盟を（思い起こさせつつ）……クライシュ族はあなたとの約束を破り、固められたあなたの盟約を反故にした……彼らは眠っているわれらをワティールで襲い、ルクーウとサジダの最中にわれらを殺した。」**

アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。**「アムル・ブン・サーリムよ、おまえは助けられるだろう。」**それから空に雲が現れ、使徒は「この雲はカアブ族（フザーア族）への助けを運んでいる」と仰せられました。

この伝承は**スィーラ書で有名**であり、ハディース学者たちはその伝承経路を論じています。その経路の一部は、他の伝承の裏づけによって、何人かの学者からハサン（良好）と評価されています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）― マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。
アル＝バイハキー『預言者性の証拠』。

詩の中の**「ルクーウとサジダの最中に」**という言葉は、犠牲者の一部が**ムスリム**であったことを示しています。したがってその襲撃は、単なる盟約違反ではなく、ムスリムの血への侵害でもあったのです。

アムルの後には**ブダイル・ブン・ワルカー**がフザーア族の数人とともに来て、彼らに起こったこと、そしてクライシュ族がどのようにバクル族を助けたかを語りまし

た。アッラーの使徒 ﷺ は注意深く耳を傾けられ ― その瞬間から、決断は下されていたのです。

マディーナのアブー・スフヤーン

クライシュ族はすぐに自分たちの過ちに気づきました。彼らは指導者**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**をマディーナに送り、和約を**更新し延長**しようとしました。アッラーの使徒 ﷺ が行動を起こされる前に。

スィーラの注：たたまれた敷物

イブン・イスハークは、アブー・スフヤーンがまず自分の娘**ウンム・ハビーバ** رضي الله عنها、すなわちアッラーの使徒 ﷺ の妻の家に入ったと伝えています。彼がアッラーの使徒 ﷺ の敷物に座ろうとすると、ウンム・ハビーバはすぐにそれをたたみました。アブー・スフヤーンは尋ねました。「娘よ、おまえはこの敷物がわたしにふさわしくないと思うのか、それともわたしがこの敷物にふさわしくないと思うのか。」彼女は答えました。**「これはアッラーの使徒 ﷺ の敷物です。あなたは多神教徒です。」**

それからアブー・スフヤーンはアッラーの使徒 ﷺ に会いましたが、使徒は答えられませんでした。彼はアブー・バクル、ウマル、アリー、ファーティマ رضي الله عنهم に会って仲介を頼みましたが―皆断りました。ウマルは言いました。「アッラーにかけて、もしわたしに蟻しかなくても、それでおまえたちと戦うだろう。」ついにアブー・スフヤーンはモスクに立ち、一方的に人びとの間の保護を宣言して、手ぶらでマッカに帰りました。

この話は**スィーラ書の伝承**で、連続した伝承経路はありませんが、歴史家の間でたいへんよく知られています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）― マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

ウンム・ハビーバの話は、血のつながりを超える**信仰への忠誠**を教えています。彼女は父を敬う娘であり続けましたが、**決して譲らなかった**のはアッラーの使徒 ﷺ の尊厳であり、それを父のために犠牲にすることはありませんでした。その数日後、父自身がマッル・アッ＝ザフラーンでイスラームに入信したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

ウンム・ハビーバ：アビシニアからの妻

たたまれた敷物の話は、一人のすばらしい女性を紹介してくれます。**ウンム・ハビーバ・ラムラ・ビント・アビー・スフヤーン** رضي الله عنها、信者たちの母です。彼女はイスラームの敵の指導者の娘でしたが、マッカで**最も早く**イスラームに入信した人びとの一人でした。

スィーラの注：アビシニアからの妻

ウンム・ハビーバは夫ウバイドゥッラー・ブン・ジャフシュとともに**アビシニア**へ移住しました。そこで夫はイスラームを捨ててキリスト教徒となり、やがて亡くなりました。ウンム・ハビーバは娘ハビーバとともに異国にひとり残されましたが、イスラームを堅く守り続けました。

アッラーの使徒 ﷺ はその後、マディーナから彼女に求婚されました。**ナジャーシー王**が使徒に代わって彼女を嫁がせ、四千ディルハムのマフル（婚資）を支払い、シュラフビール・ブン・ハサナとともに彼女をアッラーの使徒 ﷺ のもとへ送り届けました。ナジャーシーによるこの結婚とマフルは『スナン・アビー・ダーウード』2107 に伝えられています（アル＝アルバーニーはサヒーフと評価）。夫についての詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— ウンム・ハビーバ・ビント・アビー・スフヤーンの伝記。

ウンム・ハビーバは**ハディースの伝承者**でもありました。彼女が伝えたハディースの一つは、ラワーティブ（定めの任意礼拝）についてのものです。「**一昼夜に十二ラクアを礼拝する者には、楽園に一軒の家が建てられる。**」そして彼女は言いました。「**わたしはアッラーの使徒 ﷺ からそれを聞いて以来、一度も欠かしたことがありません。**」（『サヒーフ・ムスリム』728）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

何年も後、父アブー・スフヤーンが — ムスリムとして — 亡くなったとき、ウンム・ハビーバは三日目に香をつけ、アッラーの使徒 ﷺ がこう仰せられるのを聞いたと言いました。信仰する女性は、夫の死を除き、三日を超えて喪に服してはならない、と（『サヒーフ・ブハーリー』1280）。父への愛は変わらずありましたが、**シャリーアが優先された**のです。

教訓：**人の信仰は家族によって決まるのではない**。ウンム・ハビーバは多神教徒の指導者の娘であり、背教した男の妻であり、異国でひとりきりでした — それでもアッラーは彼女を**信者たちの母**として尊ばれました。そして父のための彼女の祈りはついに聞き届けられ、アブー・スフヤーンはマッカ征服の年にイスラームに入信したのです。

約束を守り、裏切りに報いる

戦場へ踏み出す前に、盟約の扱いに関する**イスラームの原則**を理解しておくことが大切です。イスラームは、たとえ敵との間であっても、ムスリムが気ままに盟約を破ることを許していません。

アッラーは仰せられます。「**あなたがたが誓いを固めた後、それを破ってはならない。**」（蜜蜂章 16:91） — 『イブン・カスィール注釈』16:91。

そして相手側の裏切りが恐れられるときには、イスラームは率直さを教えます。「（**その盟約を**）**公平に、はっきりとかれらに投げ返せ。**」（戦利品章 8:58） — 『イブン・カスィール注釈』8:58。

マッカ征服の場合、状況は異なっていました。クライシュ族は**自ら盟約を破っていた**のです。アッラーの使徒 ﷺ の同盟者への襲撃を助けたことによって。したがって盟約は彼らの側から無効となり、アッラーの使徒 ﷺ はもはやそれに縛られていませんでした。イブン・アル＝カイイムは『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』で、盟約を結んだ側がそれを破るか、わたしたちの同盟者と戦う者を助けた場合、その盟約は改めて宣言するまでもなく無効になると説明しています。

教訓：イスラームは**約束を重んじる**宗教です。マッカ征服の勝利は裏切りの上にではなく、**正義**の上に築かれました — クライシュ族は自らまいた種を刈り取ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

秘密裏の準備

アッラーの使徒 ﷺ は出発の準備を始められましたが、人びとに**目的地を告げることはありませんでした**。使徒は、クライシュ族が準備を整える前にマッカに着き、流血をできるかぎり避けたいと望まれたのです。使徒は仰せられました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3030 番

حَدَّثَنَا صَدَقَةُ بْنُ الْفَضْلِ، أَخْبَرَنَا ابْنُ عُيَيْنَةَ، عَنْ عَمْرٍو، سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم الْحَرْبُ خُدْعَةٌ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はこう仰せられました。「**戦いとは策略（戦略）である。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：サダカ・ブン・アル＝ファドル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、戦いは策略である の章、ハディース第 3030 番；ムスリム第 1739 番にも。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3030

このハディースの教訓

「**戦いとは策略である**」とは、戦いにおける戦略、秘密保持、計略が許されるという意味であり ― 約束の裏切りではありません。学者たちは、**フドア**（正当な戦いの計略）と、禁じられた**ガドル**（約束の破棄）とを区別しています。アッラーの使徒 ﷺ は通常、戦いに出ようとされるとき、別の目的地を口にして**向かう先を隠されました**（『サヒーフ・ブハーリー』2947）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：秘密を守るための祈り

イブン・イスハークは、アッラーの使徒 ﷺ がこう祈られたと伝えています。「**アッラーよ、クライシュ族から密偵と知らせを遮ってください。わたしたちが彼らの地で彼らを不意に襲うまで。**」スィーラ書はまた、使徒が**アブー・カターダ**の率いる小部隊を別の方角のバトン・イダムへ送り、人びとに目的地がマッカではないと思わせたと述べています。

そのどちらも**スィーラ書の伝承**です。その一般原則を裏づける真正なハディースは、「戦いとは策略である」のハディースと、使徒が目的地を隠された慣行です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・サアド『大列伝』（アブー・カターダのバトン・イダムへの遠征）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦いにおけるアッラーの使徒 ﷺ

アッラーの使徒 ﷺ は、当時のアラブ史上最大の軍を整えられました。しかしこの軍は、何をしてもよい軍ではありませんでした。アッラーとその使徒が教えた**戦いの作法**に縛られていたのです。アッラーは仰せられます。

「あなたがたに戦いを挑む者があれば、アッラーの道のために戦え。だが侵略的であってはならない。」（雌牛章 2:190）— 『イブン・カスィール注釈』2:190。

ブライダ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が軍の指揮官を任命されるとき、アッラーを畏れ、配下の者たちに善くするよう命じられ、それからこう仰せられたと伝えています。**「アッラーの御名において、アッラーの道のために戦え……戦え。だが戦利品を盗むな。約束を裏切るな。死体を損壊するな。子どもを殺すな。」**（『サヒーフ・ムスリム』1731）

イブン・ウマル رضى الله عنهما はまた、ある戦いで一人の女性が殺されているのが見つかったとき、アッラーの使徒 ﷺ が**女性と子どもの殺害を禁じられた**と伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』3015）。イスラームは、近代の諸条約より十四世紀も前に、戦時における民間人の保護を定めていたのです。

敵への憎しみでさえ、正義を妨げてはなりません。**「人びとを憎むあまり、あなたがたが公正を欠くようなことがあってはならない。」**（食卓章 5:8）— 『イブン・カスィール注釈』5:8。

これらの原則こそ、マッカ征服が**ほとんど流血のない**町の開放となった理由を説明しています。アッラーの使徒 ﷺ の目的は、かつて自分を追い出した町への復讐ではなく、その住民の**心を開く**ことでした。秘密保持、マッル・アッ＝ザフラーンのたき火、そして安全の申し出は、すべて戦いを求めるためではなく、避けるためのものだったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

髪の中の手紙

その秘密はあやうく漏れるところでした — 敵によってではなく、**バドルに参戦した一人の教友**によって。ハーティブ・ブン・アビー・バルタアは、アッラーの使徒 ﷺ の準備をクライシュ族に知らせる手紙を書き、マッカへ運ばせるため一人の女性に託しました。しかしアッラーはその使徒にお知らせになったのです。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4274 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ عَمْرِو بْنِ دِينَارٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي الْحَسَنُ بْنُ مُحَمَّدٍ، أَنَّهُ سَمِعَ عُبَيْدَ اللَّهِ بْنَ أَبِي رَافِعٍ، يَقُولُ سَمِعْتُ عَلِيًّا ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ بَعَثَنِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَنَا وَالزُّبَيْرَ وَالْمِقْدَادَ فَقَالَ انْطَلِقُوا حَتَّى تَأْتُوا رَوْضَةَ خَاخٍ، فَإِنَّ بِهَا ظَعِينَةً مَعَهَا كِتَابٌ، فَخُذُوا مِنْهَا. قَالَ فَانْطَلَقْنَا تَعَادَى بِنَا خَيْلُنَا حَتَّى أَتَيْنَا الرَّوْضَةَ، فَإِذَا نَحْنُ بِالظَّعِينَةِ قُلْنَا لَهَا أَخْرِجِي الْكِتَابَ. قَالَتْ مَا مَعِي كِتَابٌ. فَقُلْنَا لَتُخْرِجِنَّ الْكِتَابَ أَوْ لَنُلْقِيَنَّ الثِّيَابَ، قَالَ فَأَخْرَجَتْهُ مِنْ عِقَاصِهَا، فَأَتَيْنَا بِهِ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَإِذَا فِيهِ مِنْ حَاطِبِ بْنِ أَبِي بَلْتَعَةَ إِلَى نَاسٍ بِمَكَّةَ مِنَ الْمُشْرِكِينَ، يُخْبِرُهُمْ بِبَعْضِ أَمْرِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَا حَاطِبُ مَا هَذَا. قَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ لاَ تَعْجَلْ عَلَىَّ، إِنِّي كُنْتُ امْرَأً مُلْصَقًا فِي قُرَيْشٍ ـ يَقُولُ كُنْتُ حَلِيفًا وَلَمْ أَكُنْ مِنْ أَنْفُسِهَا ـ وَكَانَ مَنْ مَعَكَ مِنَ الْمُهَاجِرِينَ مَنْ لَهُمْ قَرَابَاتٌ، يَحْمُونَ أَهْلِيهِمْ وَأَمْوَالَهُمْ، فَأَحْبَبْتُ إِذْ فَاتَنِي ذَلِكَ مِنَ النَّسَبِ فِيهِمْ أَنْ أَتَّخِذَ عِنْدَهُمْ يَدًا يَحْمُونَ قَرَابَتِي، وَلَمْ أَفْعَلْهُ ارْتِدَادًا عَنْ دِينِي، وَلاَ رِضًا بِالْكُفْرِ بَعْدَ الإِسْلاَمِ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَمَا إِنَّهُ قَدْ صَدَقَكُمْ. فَقَالَ عُمَرُ يَا رَسُولَ اللَّهِ دَعْنِي أَضْرِبْ عُنُقَ هَذَا الْمُنَافِقِ. فَقَالَ إِنَّهُ قَدْ شَهِدَ بَدْرًا، وَمَا يُدْرِيكَ لَعَلَّ اللَّهَ اطَّلَعَ عَلَى مَنْ شَهِدَ بَدْرًا قَالَ اعْمَلُوا مَا شِئْتُمْ فَقَدْ غَفَرْتُ لَكُمْ. فَأَنْزَلَ اللَّهُ السُّورَةَ {يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لاَ تَتَّخِذُوا عَدُوِّي وَعَدُوَّكُمْ أَوْلِيَاءَ تُلْقُونَ إِلَيْهِمْ بِالْمَوَدَّةِ} إِلَى قَوْلِهِ {فَقَدْ ضَلَّ سَوَاءَ السَّبِيلِ}.

訳：

アリー رضى الله عنه は語りました。アッラーの使徒 ﷺ は、わたしとアッ＝ズバイルとアル＝ミクダードを遣わして仰せられました。「**ラウダト・ハーフまで行け。そこに乗り物に乗った女がいて、一通の手紙を持っている。それを彼女から取り上げよ。**」わたしたちは出発し、馬を全速で駆けさせてその園に着きました。すると、その女がいました。わたしたちは「手紙を出せ！」と言いました。彼女は「手紙など持っていません」と言いました。わたしたちは「手紙を出すか、さもなければおまえの衣を脱がせるぞ」と言いました。すると彼女は髪の束の中からそれを取り出しました。わたしたちはその手紙をアッラーの使徒 ﷺ のもとへ持って行きました。なんとそれは**ハーティブ・ブン・アビー・バルタア**からマッカの多神教徒の何人かに宛てたもので、アッラーの使徒 ﷺ の事柄の一部を彼らに知らせていました。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**ハーティブよ、これは何か。**」ハーティブは答えました。「アッラーの使徒よ、わたしに対して急がないでください。わたしはクライシュ族の中に（同盟者として）身を寄せる者で、彼らの血筋ではありません。あなたとともにいる移住者たちには、マッカに家族と財産を守ってくれる親族がいます。そこでわたしは―彼らと血のつながりがないので―彼らに恩を売り、わたしの親族を守ってもらいたいと思ったのです。**わたしは不信仰ゆえにしたのではなく、自分の宗教から背いたからでもなく、イスラームの後に不信仰を良しとしたからでもありません。**」アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**彼はあなたがたに真実を語った。**」ウマルは言いました。「アッラーの使徒よ、この偽信者の首をはねさせてください。」使徒は仰せられました。「**彼はバドルに参戦した。あなたに何がわかろう。アッラーはバドルの人びとをご覧になり、『あなたがたの望むことをせよ。われはすでにあなたがたを赦した』と仰せられたのかもしれない。**」そこでアッラーは章を啓示されました。「あなたがた信仰する者よ、わが敵であり、またあなたがたの敵である者を親しい友としてはならない……」から「……かれは正しい道から迷い去ったのである。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← アル＝ハサン・ブン・ムハンマド・ブン・アル＝ハナフィーヤ ← ウバイドゥッラー・ブン・アビー・ラーフィウ ← アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、マッカ征服の遠征の章、ハディース第 4274 番；第 3007、3983、4890 番にも；ムスリム第 2494 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4274

このハディースの教訓

このハディースには**奇跡**が含まれています。アッラーの使徒 ﷺ は、密偵もなしに、その女のいる場所、乗り物、運んでいる手紙を知っておられたのです。別の伝承でアリーは言っています。「**アッラーの使徒 ﷺ はわたしたちに嘘を言われたことはない**」（『サヒーフ・ブハーリー』3983）— 使徒の知らせへの全き信頼です。

また**アッラーの使徒 ﷺ** の公正さにも注目してください。使徒はハーティブをすぐに罰することはされず、まずこう尋ねられました。「**ハーティブよ、これは何か。**」使徒は彼の言い分を聞き、その真実を受け入れ、ウマルの提案を退けられました。指導者は、理解する前に罰することはしないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：28 / 85

ハーティブ・ブン・アビー・バルタアとは誰か

ハーティブ・ブン・アビー・バルタア رضي الله عنه とは誰だったのでしょうか。彼は偽信者ではなく、イスラームに**大きな功績**のある教友でした。

スィーラの注：ハーティブの生涯

ハーティブはラフム族の出身で、マッカでは**アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー家の同盟者**でした。早くにイスラームに入信してマディーナへ移住し、**バドルの戦いに参戦**し、フダイビーヤにも加わりました。彼はまた**アッラーの使徒 ﷺ からアル＝ムカウキスへの使者**でもありました。エジプトの統治者（第 17 巻）で、マーリヤ・アル＝キブティーヤを含む贈り物を持ち帰ったのです。

彼の妻と子どもたちは、親族の保護者もないままマッカに残っていました。これが彼に手紙を書かせたのです — **家族を案じて**であり、自分の宗教を疑ったからではありません。彼はヒジュラ暦 30 年にマディーナで亡くなりました。

参照：

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— ハーティブ・ブン・アビー・バルタアの伝記。

ウィキペディア「Hatib ibn Abi Balta'a」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hatib_ibn_Abi_Balta%27a

ハーティブの話は、**善い人でさえ過ちを犯しうる**ことを示しています。とくに家族への愛が判断を支配するときには。イスラームはその愛を否定しませんが、アッラーとその使徒への愛の下に置くのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

試問される女章

ハーティブの出来事は、上のアリーのハディースにあるとおり、**試問される女章**の冒頭が啓示されるきっかけとなりました。その最初の節はこう始まります。

「あなたがた信仰する者よ、わが敵であり、またあなたがたの敵である者を親しい友としてはならない。」（試問される女章 60:1） — 『イブン・カスィール注釈』60:1。

イブン・カスィールは、この節がハーティブについて啓示されたこと、そしてアッラーがなお彼を「**あなたがた信仰する者よ**」と呼びかけておられることを説明しています — 彼の行為は大きな過ちであっても、彼を信仰から外すものではなかったという印です。この節はまた、使徒とムスリムを追い出した敵は、愛情と秘密を注ぐ相手にふさわしくないことを思い起こさせます。

しかし同じ章は、敵対しない非ムスリムへの公正をも強調しています。**「アッラーは、宗教のことであなたがたに戦いを仕掛けなかった者たちに、親切を尽くし、公正に交わることを禁じられない。」**（試問される女章 60:8） — 『イブン・カスィール注釈』60:8。

この二つの節は**均衡**を与えています。ウンマに忠実であり、戦いを仕掛ける敵にその秘密を漏らさないこと。しかし、イスラームに敵対しない者には誰に対しても**親切と公正**を尽くすことです。

バドルの人々と赦しの門

ウマル رضى الله عنه はハーティブの行為を、死罪に値する裏切りと見ました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は、一つの過ちだけでなく、ハーティブの**生涯の全体**をご覧になったのです。ジャービル رضى الله عنه は、ハーティブの立場を強めるもう一つの出来事を伝えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 2495 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا لَيْثٌ، ح وَحَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ رُمْحٍ، أَخْبَرَنَا اللَّيْثُ، عَنْ أَبِي الزُّبَيْرِ، عَنْ جَابِرٍ، أَنَّ عَبْدًا، لِحَاطِبٍ جَاءَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَشْكُو حَاطِبًا فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ لَيَدْخُلَنَّ حَاطِبٌ النَّارَ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَذَبْتَ لاَ يَدْخُلُهَا فَإِنَّهُ شَهِدَ بَدْرًا وَالْحُدَيْبِيَةَ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه によれば、ハーティブの奴隷の一人がアッラーの使徒 ﷺ のもとへ来てハーティブのことを訴え、「アッラーの使徒よ、ハーティブはきっと地獄に入ります」と言いました。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**おまえは嘘を言っている。彼はそこに入らない。**彼はバドルとフダイビーヤに参加したのだから。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アル＝ライス・ブン・サアド；また ムハンマド・ブン・ルムフ ← アル＝ライス・ブン・サアド ← アブー・アッ＝ズバイル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』教友の美徳の書、ハーティブ・ブン・アビー・バルタアとバドルの人びとの美徳の章、ハディース第 2495 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2495

このハディースの教訓

学者たちは、「**あなたがたの望むことをせよ。われはすでにあなたがたを赦した**」という御言葉は罪を犯す許可ではなく、バドルの人びとが悔悟へと導かれ、赦され

るという**吉報**であると説明しています。『サヒーフ・ブハーリー』3983 の伝承では、ウマルはその御言葉を聞くと**目から涙があふれ**、「アッラーとその使徒が最もよくご存じです」と言いました。

この話の大きな教訓：**大きな善行は過ちを覆いうる**。アッラーは、善行は悪行を消し去ると仰せられています（フード章 11:114）。わたしたちもまた、一つの過ちだけで裁くのではなく、兄弟の**善行の歴史**を見て評価すべきなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ラマダーン月の一万の軍勢

ヒジュラ暦 8 年のラマダーン月、アッラーの使徒 ﷺ は、当時アラビア半島がかつて見たこともない最大の軍を率いてマディーナを出発されました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4276 番

حَدَّثَنِي مَحْمُودٌ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنِي مَعْمَرٌ، قَالَ أَخْبَرَنِي الزُّهْرِيُّ، عَنْ عُبَيْدِ اللَّهِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم خَرَجَ فِي رَمَضَانَ مِنَ الْمَدِينَةِ، ومعه عَشَرَةُ آلاَفٍ، وَذَلِكَ عَلَى رَأْسِ ثَمَانِ سِنِينَ وَنِصْفٍ مِنْ مَقْدَمِهِ الْمَدِينَةَ، فَسَارَ هُوَ وَمَنْ مَعَهُ مِنَ الْمُسْلِمِينَ إِلَى مَكَّةَ، يَصُومُ وَيَصُومُونَ حَتَّى بَلَغَ الْكَدِيدَ ـ وَهْوَ مَاءٌ بَيْنَ عُسْفَانَ وَقُدَيْدٍ ـ أَفْطَرَ وَأَفْطَرُوا. قَالَ الزُّهْرِيُّ وَإِنَّمَا يُؤْخَذُ مِنْ أَمْرِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الآخِرُ فَالآخِرُ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はラマダーン月に**一万人を率いて**マディーナを出発されました。それはマディーナに来られてからちょうど八年半のときでした。使徒とともにいたムスリムたちはマッカへ向かって進みました。使徒は斎戒し、彼らも斎戒していましたが、**アル＝カディード** ― ウスファーンとクダイドの間の水場 ― に着くと、使徒は斎戒を解き、彼らも解きました。（アッ＝ズフリーは言いました：）（規範として）取られるのは、アッラーの使徒 ﷺ の最後の行いである。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← アブドゥッラッザーク ← マアマル・ブン・ラーシド ← アッ＝ズフリー ← ウバイドゥッラー・ブン・アブドゥッラー・ブン・ウトバ ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما。

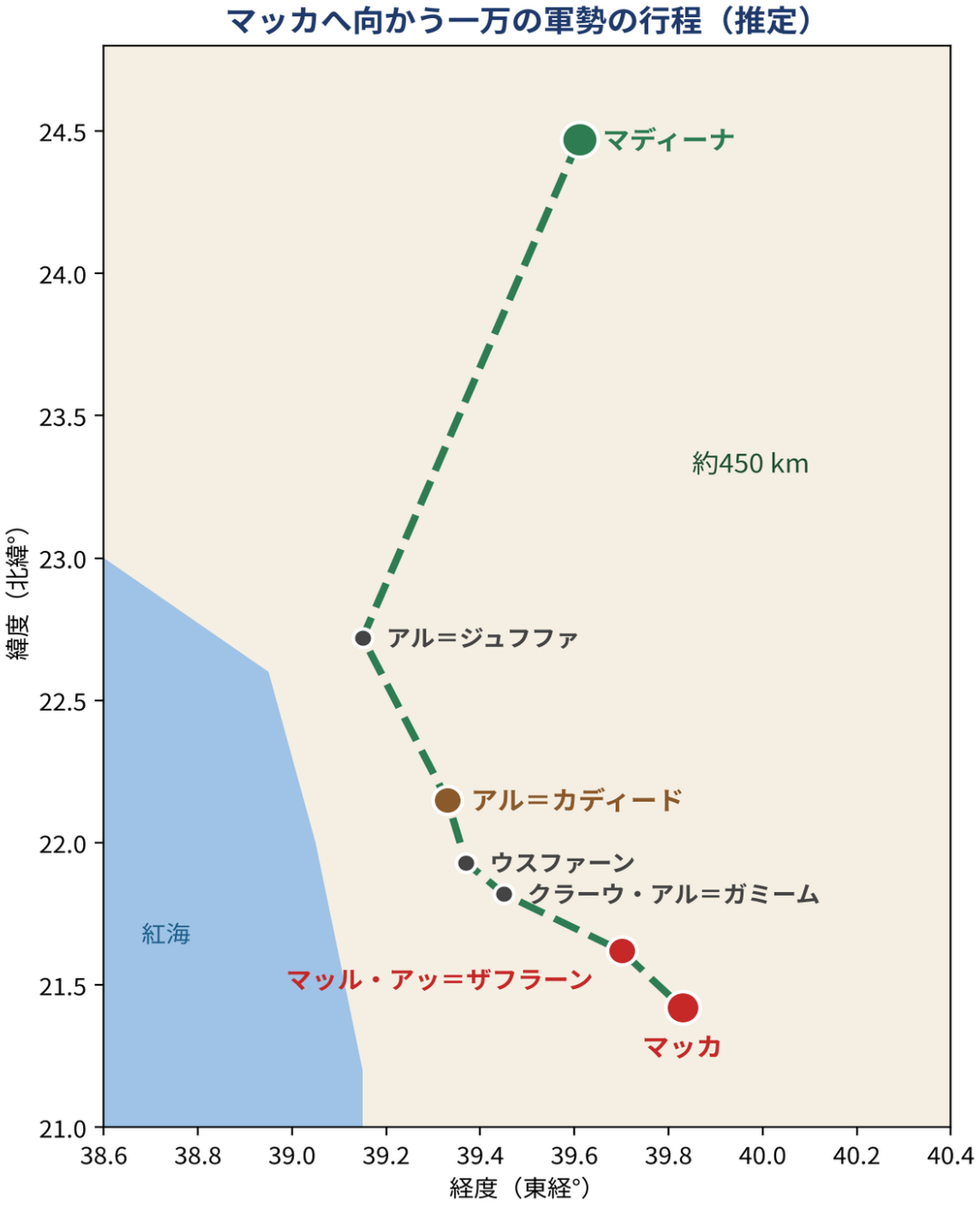
参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ラマダーン月のマッカ征服の章、ハディース第 4276 番；第 4275、1944 番にも。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4276

このハディースの教訓

一万人 — 二年前のフダイビーヤの人数の七倍以上です。移住者とアンサールのほかに、**ムザイナ族、ジュハイナ族、アスラム族、ギファール族、スライム族、フザーア族**などの部族が加わりました。スィーラ書は、使徒が**ラマダーン月 10 日**に出発され、**アブー・ルフム・クルスーム・ブン・フサイン・アル＝ギファーリー**をマディーナでの代理に任命されたと述べています。



アル＝カディード、ウスファーン、クラーウ・アル＝ガミーム、マッル・アッ＝ザフラーンは真正なハディースに出てくる地名。位置は推定。

図 4：マッカへ向かう一万の軍勢の行程（推定）。

マディーナからマッカまでは約 ***450 km*** です。軍はアル＝ジュフファ、クダイド、アル＝カディード、ウスファーンを経て、**マッル・アッ＝ザフラーン**へ進みました —

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカの北約 20 km の広い谷で、今日ではワーディー・ファーティマとアル＝ジュムームの地域として知られています。

一万人の人とラクダと馬が、ラマダーン月に、ヒジャーズの照りつける太陽の下で、これほどの距離を進む様子を想像してみてください。それには**高い規律**と周到な指導力が必要でした — 水、食糧、野営の配置、そして秘密保持をすべて管理しなければなりません。そのすべてが整然と進められ、クライシュ族は軍がマッカの門に着くまでその到来に気づかなかったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

旅の途中の斎戒

その行軍は**ラマダーン**月に行われました。アッラーの使徒 ﷺ と教友たちは初め斎戒していました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、クラーウ・アル＝ガミームで起こったことを語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1114 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَهَّابِ، - يَعْنِي ابْنَ عَبْدِ الْمَجِيدِ - حَدَّثَنَا جَعْفَرٌ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ جَابِرِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، - رضى الله عنهما - أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَرَجَ عَامَ الْفَتْحِ إِلَى مَكَّةَ فِي رَمَضَانَ فَصَامَ حَتَّى بَلَغَ كُرَاعَ الْغَمِيمِ فَصَامَ النَّاسُ ثُمَّ دَعَا بِقَدَحٍ مِنْ مَاءٍ فَرَفَعَهُ حَتَّى نَظَرَ النَّاسُ إِلَيْهِ ثُمَّ شَرِبَ فَقِيلَ لَهُ بَعْدَ ذَلِكَ إِنَّ بَعْضَ النَّاسِ قَدْ صَامَ فَقَالَ أُولَئِكَ الْعُصَاةُ أُولَئِكَ الْعُصَاةُ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما によれば、アッラーの使徒 ﷺ は征服の年のラマダーン月にマッカへ出発されました。使徒は**クラーウ・アル＝ガミーム**に着くまで斎戒し、人びとも斎戒していました。それから使徒は一杯の水を求め、人びとに見えるように高く掲げて飲まれました。その後、使徒に「一部の人びとはまだ斎戒しています」と告げられると、使徒は仰せられました。「**その者たちは背く者だ。その者たちは背く者だ。**」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← アブドゥル・ワッハーブ・ブン・アブドゥル・マジード・アッ＝サカフィー ← ジャアファル・アッ＝サーディク・ブン・ムハンマド ←（その父）ムハンマド・アル＝バーキル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』斎戒の書、旅行者がラマダーン月に斎戒することも解くことも許される章、ハディース第 1114a 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1114a

このハディースの教訓

なぜ使徒は斎戒を続けた者たちを「**背く者**」と呼ばれたのでしょうか。イマーム・アン＝ナワウィーはこう説明しています。使徒は敵に立ち向かう力を保つため、斎戒を解くよう**命じておられた**のに、彼らはなお斎戒を続けたからです。普通の状況では旅行者は選ぶことができますが、指導者が戦いの利益のために斎戒を解くよう命じたときは、**服従の方がまさる**のです。

この緩和はアッラーの御言葉に基づいています。「**アッラーはあなたがたに易きを望み、困難を望まれない。**」（雌牛章 2:185） — 『イブン・カスィール注釈』2:185。

このハディースはまた、アッラーの使徒 ﷺ への服従が、追加の崇拝行為のように見える事柄においてさえ優先されなければならないことを示しています。斎戒は良いことですが、使徒がより大きな利益のために斎戒を解くよう命じられたときには、**斎戒を解くことこそが崇拝**なのです。宗教は、自分がより重いと感じることで測るのではなく、アッラーとその使徒が望まれることで測るのです。

「望む者は斎戒せよ」

イブン・アッバース رضى الله عنهما は同じ出来事を別の角度から語り、その規定をまとめています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4279 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنْ مَنْصُورٍ، عَنْ مُجَاهِدٍ، عَنْ طَاوُسٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، قَالَ سَافَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي رَمَضَانَ، فَصَامَ حَتَّى بَلَغَ عُسْفَانَ، ثُمَّ دَعَا بِإِنَاءٍ مِنْ مَاءٍ فَشَرِبَ نَهَارًا، لِيُرِيَهُ النَّاسَ، فَأَفْطَرَ حَتَّى قَدِمَ مَكَّةَ. قَالَ وَكَانَ ابْنُ عَبَّاسٍ يَقُولُ صَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي السَّفَرِ وَأَفْطَرَ، فَمَنْ شَاءَ صَامَ، وَمَنْ شَاءَ أَفْطَرَ.

訳：

ターウースがイブン・アッバース رضى الله عنهما から伝えるところによれば、彼は言いました。アッラーの使徒 ﷺ はラマダーン月に旅をされ、ウスファーンに着くまで斎戒されました。それから水の入った器を求め、**人びとに見えるように**昼間にそれを飲まれ、マッカに着くまで斎戒されませんでした。イブン・アッバースは言いました。「**アッラーの使徒 ﷺ は（旅の途中で）斎戒されたこともあり、解かれたこともある。だから望む者は斎戒し、望む者は解いてよい。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アブドゥッラー・アル＝マディーニー ← ジャリール・ブン・アブドゥル・ハミード ← マンスール・ブン・アル＝ムウタミル ← ムジャーヒド・ブン・ジャブル ← ターウース・ブン・カイサーン ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ラマダーン月のマッカ征服の章、ハディース第 4279 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4279

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は昼間**人びとの前で**飲まれました。彼らが後に続く勇気を持てるようにです。これは**手本**による指導です。指導者は緩和を許すだけでなく、自らそれを示して、従う者がそれを取ることに罪悪感を抱かないようにするのです。

イブン・アッバースの結論 — **「望む者は斎戒し、望む者は解く」** — は法学上の規定の基礎となりました。旅行者はラマダーン月の斎戒を解き、別の日に補うことが許されます。斎戒が負担にならなければ続けてもよく、負担となったり重要な務めのために体を弱らせたりするなら、斎戒を解く方がまさるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ラマダーン：勝利の月

スィーラにおける二つの最大の勝利が**ラマダーン**月に起こったのは偶然ではありません。ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日の**バドルの戦い**と、ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月の**マッカ征服**です。クルアーンが下された月は、アッラーがその助けを豊かに注がれる月なのです。

項目	バドルとマッカ征服
月	どちらもラマダーン月
軍の人数	313 人 → 10,000 人
状況	弱く少数 → 強く多数
結果	「識別の日」 → マッカ開放
姿勢 — アッラーの使徒 ﷺ	切実な祈り → 謙虚さと赦し

ラマダーンは**忍耐、敬虔、規律**を教えます。斎戒しながら照りつける太陽の下を進み、斎戒を解くよう命じられると従った軍 — それこそラマダーンが形づくった軍でした。今日のわたしたちにとって、ラマダーンは自らの心を欲望の偶像から「開放」する機会なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

帰るべき所へ

八年前、アッラーの使徒 ﷺ は**追われる身**として夜にマッカを去り、アブー・バクル رضى الله عنه とともにサウルの洞窟に身を隠されました（第 7 巻）。今、使徒は一万人の指導者として帰って来られました。アッラーはこの帰還を初めから約束しておられたのです。

「本当にあなたにクルアーンを（守るよう）定められた方は、必ずあなたを帰るべき所に帰されるであろう。」（物語章 28:85）— 『イブン・カスィール注釈』28:85。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、この節の**「帰るべき所」**（マアード）を**マッカ**と解釈しました（『サヒーフ・ブハーリー』4773）。イブン・カスィールは、一部の学者がこの節は移住の旅の途中、使徒がマッカを恋しく思われたときに啓示されたと考えていると述べています。その約束は八年後、ヒジュラ暦 8 年のラマダーン月に果たされたのです。

アッラーの使徒 ﷺ のマッカへの愛は、マッカの市場アル＝ハズワラに立って語られた言葉に表れています。**「アッラーにかけて、おまえはアッラーの地の中で最も良く、アッラーに最も愛される地だ。もしわたしがおまえから追い出されなかったなら、決して出て行きはしなかった。」**（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3925、アッ＝ティルミズィーはハサン・サヒーフと評価。）

教訓：**アッラーの約束は必ず果たされる。**たとえその時が遠く見えても。真理を守るために追われた者は何も失いません。アッラーはその者が愛するものを、より尊い形で返してくださいます。そしてアッラーがそれを返されたとき、使徒は復讐ではなく**赦し**をもって帰られたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

聖域のためのイブラーヒームの祈り

マッカは普通の町ではありません。それは**預言者イブラーヒーム（彼に平安あれ）の祈り**の上に築かれた町であり、人びとのために建てられた最初の礼拝の館がそこにあります。

「本当に人びとのために最初に建立された家は、バッカ（マッカ）のそれである。」（イムラーン家章 3:96） — 『イブン・カスィール注釈』3:96。

妻と息子イスマーイールをその不毛の谷に残すとき、預言者イブラーヒームは祈りました。**「主よ、この町を安全にしてください。わたしと子孫を偶像崇拝から遠ざけてください。」**（イブラーヒーム章 14:35） — 『イブン・カスィール注釈』14:35。

歴史の皮肉を見てください。イブラーヒームはマッカが**安全**であり、子孫が**偶像から遠ざけられる**よう祈りました。しかし数世紀後、彼が建てたカアバは **360 体の偶像**に囲まれ、彼自身の子孫 — クライシュ族 — がその偶像の守り手となっていたのです。さらに、安全であるはずの地は、聖域でのフザーア族への襲撃によって汚されました。

イブラーヒームはまた、カアバが崇拝の中心となるよう祈りました。**「主よ、（かれらをそこに住まわせたのは）礼拝の務めを守らせるためです。」**（イブラーヒーム章 14:37） — 『イブン・カスィール注釈』14:37。

アッラーの使徒 ﷺ は**イブラーヒームの祈りへの答え**です — 使徒ご自身、父祖イブラーヒームの祈りであると仰せられました（アフマドの伝承）。マッカ征服は、その祈りが完全に聞き届けられた瞬間でした。カアバは偶像から清められ、聖域は再び安全となり、アッラーの館の周りで礼拝が行われたのです。その話は第 21 巻で語られます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

アル＝アッバースの移住

行軍の途中、心を打ついくつかの出会いがありました。最初は、アッラーの使徒 ﷺ ご自身の父方のおじ、**アル＝アッバース・ブン・アブドゥル・ムッタリブ** رضى الله عنه との出会いです。

スィーラの注：アル＝ジュフファでの出会い

スィーラの学者たちは、アル＝アッバースが家族とともにマディーナへ**移住**するためマッカを出て、アッラーの使徒 ﷺ に**アル＝ジュフファ**で出会ったと述べています（一部の伝承ではズル・フライファ）。使徒は家族をマディーナへ送り届けるよう命じ、アル＝アッバース自身はマッカへ向かう軍に加わりました。こうして彼は、マッカ開放の前の**最後の移住者**となったのです。

一部の学者は、アル＝アッバースはずっと前にひそかにイスラームに入信しており、アッラーの使徒 ﷺ に知らせを伝えるためマッカにとどまっていたと考えています。これは論じられている**歴史家の見解**です。確かなのは、彼がマッカ征服の前にイスラームを公にしたことです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— アル＝アッバース・ブン・アブドゥル・ムッタリブの伝記。

アル＝アッバースの存在は非常に重要でした。彼はクライシュ族の中で**高い地位**にあり、アブー・スフヤーンとは古くからの友人だったからです。まもなく、マッル・アッ＝ザフラーンでアブー・スフヤーンとアッラーの使徒 ﷺ との橋渡しをするのは彼なのです。アッラーは物語の一つひとつの断片を、その場所に配されるのです。

教訓：**移住と悔悟の門**は最後の瞬間まで開かれています。アル＝アッバースは最後の瞬間に来ましたが、それでも受け入れられ、尊ばれました。アッラーの使徒 ﷺ は

彼をたいへん敬い、人のおじはその父のようなものだと仰せられました（『サヒーフ・ムスリム』983）。

かつて傷つけた二人の親族

二つ目の出会いはさらに心を打つものでした。かつて**最も激しく苦しめた**相手であるアッラーの使徒 ﷺ のもとに、クライシュ族の二人の男がイスラームに入信するためにやって来たのです。使徒のいとこ**アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス**・ブン・アブドゥル・ムッタリブと、**アブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤ**、すなわちウンム・サラマ رضى الله عنها の兄弟です。

スィーラの注：ニーク・アル＝ウカーブにて

イブン・イスハークは、二人がアッラーの使徒 ﷺ に**ニーク・アル＝ウカーブ** — マッカとマディーナの間 — で会ったが、使徒は初め、かつての迫害の重さゆえに彼らを受け入れようとされなかったと伝えています。アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスは何年も詩で使徒を嘲っていたのです。ウンム・サラマは願いました。「アッラーの使徒よ、あなたのいとこ、あなたの義理の兄弟です！」

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه はアブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスにこう助言したと伝えられています。「アッラーの使徒 ﷺ のもとへ正面から行き、ユースフの兄弟たちがユースフに言った言葉を言いなさい。使徒は、自分より言葉の良い者がいることを好まれないから。」彼がそのとおりにすると、アッラーの使徒 ﷺ はユースフ（彼に平安あれ）の答えで答えられました。二人ともイスラームに入信し、アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスはのちに**フナインでアッラーの使徒 ﷺ とともに堅く踏みとどまった**のです。

この話は**スィーラ書の伝承**です。フナインでのアブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスの堅忍は、『サヒーフ・ムスリム』1775 で真正に伝えられています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

ユースフの兄弟たちの言葉：「**アッラーにかけて、アッラーは確かにわたしたちよりもあなたを優遇された。**」（ユースフ章 12:91） — 『イブン・カスィール注釈』12:91。

そして、アッラーの使徒 ﷺ が繰り返されたユースフの答え：「**今日あなたがたに咎めはない。**」（ユースフ章 12:92） — 『イブン・カスィール注釈』12:92。

同じ言葉 — 「**今日あなたがたに咎めはない**」 — は、スィーラの伝承によれば、開放の日にアッラーの使徒 ﷺ によってマッカの全住民に向けて再び繰り返されることになります（第 21 巻）。使徒の赦しは、ご自身の親族から始まったのです。

マッル・アッ＝ザフラーンの火

ムスリム軍は、マッカから約一日の行程にある**マッル・アッ＝ザフラーン**に野営しましたが、クライシュ族はまだそれを知りませんでした。アッラーの使徒 ﷺ は各隊に火をたくよう命じられ、谷は**何千ものたき火**で満たされました。ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、そこで起こったことを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4280 番

حَدَّثَنَا عُبَيْدُ بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ لَمَّا سَارَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَامَ الْفَتْحِ فَبَلَغَ ذَلِكَ قُرَيْشًا، خَرَجَ أَبُو سُفْيَانَ بْنُ حَرْبٍ وَحَكِيمُ بْنُ حِزَامٍ وَبُدَيْلُ بْنُ وَرْقَاءَ يَلْتَمِسُونَ الْخَبَرَ عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَقْبَلُوا يَسِيرُونَ حَتَّى أَتَوْا مَرَّ الظَّهْرَانِ، فَإِذَا هُمْ بِنِيرَانٍ كَأَنَّهَا نِيرَانُ عَرَفَةَ، فَقَالَ أَبُو سُفْيَانَ مَا هَذِهِ لَكَأَنَّهَا نِيرَانُ عَرَفَةَ. فَقَالَ بُدَيْلُ بْنُ وَرْقَاءَ نِيرَانُ بَنِي عَمْرٍو. فَقَالَ أَبُو سُفْيَانَ عَمْرٌو أَقَلُّ مِنْ ذَلِكَ. فَرَآهُمْ نَاسٌ مِنْ حَرَسِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَدْرَكُوهُمْ فَأَخَذُوهُمْ، فَأَتَوْا بِهِمْ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَسْلَمَ أَبُو سُفْيَانَ، فَلَمَّا سَارَ قَالَ لِلْعَبَّاسِ احْبِسْ أَبَا سُفْيَانَ عِنْدَ حَطْمِ الْخَيْلِ حَتَّى يَنْظُرَ إِلَى الْمُسْلِمِينَ. فَحَبَسَهُ الْعَبَّاسُ، فَجَعَلَتِ الْقَبَائِلُ تَمُرُّ مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم تَمُرُّ كَتِيبَةً كَتِيبَةً عَلَى أَبِي سُفْيَانَ، فَمَرَّتْ كَتِيبَةٌ قَالَ يَا عَبَّاسُ مَنْ هَذِهِ قَالَ هَذِهِ غِفَارُ. قَالَ مَا لِي وَلِغِفَارَ ثُمَّ مَرَّتْ جُهَيْنَةُ، قَالَ مِثْلَ ذَلِكَ، ثُمَّ مَرَّتْ سَعْدُ بْنُ هُذَيْمٍ، فَقَالَ مِثْلَ ذَلِكَ، وَمَرَّتْ سُلَيْمٌ، فَقَالَ مِثْلَ ذَلِكَ، حَتَّى أَقْبَلَتْ كَتِيبَةٌ لَمْ يَرَ مِثْلَهَا، قَالَ مَنْ هَذِهِ قَالَ هَؤُلاَءِ الأَنْصَارُ عَلَيْهِمْ سَعْدُ بْنُ عُبَادَةَ مَعَهُ الرَّايَةُ. فَقَالَ سَعْدُ بْنُ عُبَادَةَ يَا أَبَا سُفْيَانَ الْيَوْمَ يَوْمُ الْمَلْحَمَةِ، الْيَوْمَ تُسْتَحَلُّ الْكَعْبَةُ. فَقَالَ أَبُو سُفْيَانَ يَا عَبَّاسُ حَبَّذَا يَوْمُ الذِّمَارِ. ثُمَّ جَاءَتْ كَتِيبَةٌ، وَهْىَ أَقَلُّ الْكَتَائِبِ، فِيهِمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَصْحَابُهُ، وَرَايَةُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مَعَ الزُّبَيْرِ بْنِ الْعَوَّامِ، فَلَمَّا مَرَّ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِأَبِي سُفْيَانَ قَالَ أَلَمْ تَعْلَمْ مَا قَالَ سَعْدُ بْنُ عُبَادَةَ قَالَ مَا قَالَ. قَالَ كَذَا وَكَذَا. فَقَالَ كَذَبَ سَعْدٌ، وَلَكِنْ هَذَا يَوْمٌ يُعَظِّمُ اللَّهُ فِيهِ

الْكَعْبَةَ، وَيَوْمٌ تُكْسَى فِيهِ الْكَعْبَةُ. قَالَ وَأَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَنْ تُرْكَزَ رَايَتُهُ بِالْحَجُونِ. قَالَ عُرْوَةُ وَأَخْبَرَنِي نَافِعُ بْنُ جُبَيْرِ بْنِ مُطْعِمٍ قَالَ سَمِعْتُ الْعَبَّاسَ يَقُولُ لِلزُّبَيْرِ بْنِ الْعَوَّامِ يَا أَبَا عَبْدِ اللَّهِ، هَا هُنَا أَمَرَكَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَنْ تَرْكُزَ الرَّايَةَ، قَالَ وَأَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَئِذٍ خَالِدَ بْنَ الْوَلِيدِ أَنْ يَدْخُلَ مِنْ أَعْلَى مَكَّةَ مِنْ كَدَاءٍ، وَدَخَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مِنْ كُدًا، فَقُتِلَ مِنْ خَيْلِ خَالِدٍ يَوْمَئِذٍ رَجُلاَنِ حُبَيْشُ بْنُ الأَشْعَرِ وَكُرْزُ بْنُ جَابِرٍ الْفِهْرِيُّ.

訳：

ヒシャームがその父（ウルワ）から伝えるところによれば、彼は言いました。アッラーの使徒 ﷺ が征服の年に出発され、その知らせがクライシュ族に届くと、**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ、ハキーム・ブン・ヒザーム、ブダイル・ブン・ワルカー**が、アッラーの使徒 ﷺ の知らせを探りに出ました。彼らは進んで**マッル・アッ＝ザフラーン**に着きました。すると彼らは、**アラファの火のようなたき火の数々**を目にしました。アブー・スフヤーンは言いました。「これは何だ。まるでアラファの火のようだ。」ブダイル・ブン・ワルカーは言いました。「これはアムル族（フザーア族）の火だ。」アブー・スフヤーンは言いました。「アムル族はこれより少ない。」すると、アッラーの使徒 ﷺ の見張りの何人かが彼らを見つけ、追って捕らえ、アッラーの使徒 ﷺ のもとへ連れて行きました。**そしてアブー・スフヤーンはイスラームに入信しました。**使徒は出発されるとき、アル＝アッバースに仰せられました。**「アブー・スフヤーンを、馬がひしめく狭い道に引き止めておけ。ムスリムたちを見られるように。」**アル＝アッバースは彼を引き止め、預言者 ﷺ とともにいた諸部族が、部隊ごとにアブー・スフヤーンの前を通り過ぎました。一つの部隊が通ると、彼は尋ねました。「アッバースよ、これは誰だ。」アル＝アッバースは「ギファール族だ」と答えました。彼は「ギファール族とわたしに何の関わりがある」と言いました。次にジュハイナ族が通り、彼は同じように言いました。次にサアド・ブン・フザイム族、彼は同じように言いました。そしてスライム族、彼は同じように言いました。やがて、彼が見たこともないような一つの部隊が来ました。彼は「これは誰だ」と尋ねました。アル＝アッバースは「アンサールだ。旗を持つサアド・ブン・ウバーダが率いている」と答えました。サアド・ブン・ウバーダは

言いました。「アブー・スフヤーンよ、**今日は流血の日だ。今日、カアバ（の不可侵）は解かれる。**」アブー・スフヤーンは言いました。「アッバースよ、この（保護の）日はなんと良い日か。」それから一つの部隊 — 部隊の中で最も小さいもの — が来ました。その中にはアッラーの使徒 ﷺ と教友たちがおり、預言者 ﷺ の旗はアッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワームが持っていました。アッラーの使徒 ﷺ がアブー・スフヤーンの前を通られると、彼は言いました。「サアド・ブン・ウバーダが何と言ったかご存じですか。」使徒は「彼は何と言ったのか」と尋ねられました。彼は「これこれと言いました」と答えました。使徒は仰せられました。「**サアドは誤った。**いや、今日はアッラーがカアバを尊ばれる日であり、カアバにキスワ（覆い布）が掛けられる日である。」アッラーの使徒 ﷺ は、その旗をアル＝ハジューンに立てるよう命じられました。ウルワは言いました。ナーフィウ・ブン・ジュバイル・ブン・ムトイムがわたしに語りました。「わたしは、アル＝アッバースがアッ＝ズバイルにこう言うのを聞いた。『アブー・アブドゥッラーよ、ここがアッラーの使徒 ﷺ があなたに旗を立てるよう命じられた場所だ。』」その日、アッラーの使徒 ﷺ はハーリド・ブン・アル＝ワリードに、カダーを通ってマッカの上手から入るよう命じられ、預言者 ﷺ はクダーを通って入られました。その日、ハーリドの騎兵のうち二人が殺されました。フバイシュ・ブン・アル＝アシュアルとクルズ・ブン・ジャービル・アル＝フィフリーです。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイド・ブン・イスマーイール ← アブー・ウサーマ・ハンマード・ブン・ウサーマ ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← （その父）ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル（ムルサルとして）；またウルワは言った、わたしに語ったのは ナーフィウ・ブン・ジュバイル・ブン・ムトイム ← アル＝アッバース・ブン・アブドゥル・ムッタリブ رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、征服の日に預言者 ﷺ が旗を立てた場所の章、ハディース第 4280 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。冒頭の一部はウルワによるムルサルの伝承であり、他の伝承に裏づけられているためブハーリーに受け入れられた。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4280

このハディースの教訓

アブー・スフヤーンはその火を**アラファの火** — 巡礼の季節にアラファの谷を埋め尽くす巡礼者たちの火 — にたとえました。それほど大きな火の海について、彼に思い浮かべられた唯一の比較だったのです。この戦略は、クライシュ族を**畏怖させ**、戦わずに降伏させることを目的としていました — そしてそれによって、双方の命を救ったのです。

ブダイル・ブン・ワルカーの「これはアムル族（フザーア族）の火だ」という言葉にも注目してください。彼自身フザーア族の人でしたが、自分の部族が今や一万の軍の一部となっていることを知らなかったのです。アッラーの使徒 ﷺ の秘密保持はまさに成功していました。

アブー・スフヤーンの入信

ブハーリーのハディースは簡潔にこう述べています。「**そしてアブー・スフヤーンはイスラームに入信した。**」スィーラ書は、その決定的な夜を詳しく述べています。

スィーラの注：天幕の夜 — アッラーの使徒 ﷺ

イブン・イスハークは、アル＝アッバースが**白いラバ** — アッラーの使徒 ﷺ のもの — に乗ってマッカの方へ向かい、クライシュ族に知らせて安全を求めに来させられる誰かに会えないかと願ったと伝えています。彼はアブー・スフヤーンの声を聞きつけ、自分の乗り物の後ろに乗せて、アッラーの使徒 ﷺ の天幕へ連れて行きました。ウマルの天幕の前を通ると、ウマルはアブー・スフヤーンに気づき、彼を殺す許しを得ようと追いかけました。アル＝アッバースは彼のために保護を願いました。

アッラーの使徒 ﷺ はアル＝アッバースに仰せられました。「彼をおまえの天幕に連れて行き、朝になったらわたしのもとに連れて来なさい。」その朝、使徒は尋ねられました。「**アブー・スフヤーンよ、気の毒な者よ、アッラーのほかに神はないと知るべき時がまだ来ないのか。**」アブー・スフヤーンは答えました。「もしアッラーのほかに神がいたなら、わたしを助けたでしょう。」それから使徒はご自身の使徒性について尋ねられました。アブー・スフヤーンは、心にまだ何かが残っていると言いました。ついにアル＝アッバースに促されて、彼は**シャハーダ（信仰告白）**を唱えたのです。

この会話の詳細は**スィーラ書の伝承**です。マッル・アッ＝ザフラーンでのアブー・スフヤーンの入信は、上のブハーリーのハディースで真正に伝えられています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アッラーの使徒 ﷺ の気高い人格を見てください。目の前の男は、何年もウフドとハンダクでクライシュ族を率いた**敵の指導者**でした。それでも使徒は復讐せず、むしろ**救いへと招かれた**のです。スィーラ書はまた、使徒がアブー・スフヤーンに一つ

の栄誉を与えられたと述べています。彼の家に入る者は安全である、と — これは『サヒーフ・ムスリム』1780 で真正に伝えられており、第 21 巻で詳しく述べます。

ハキーム・ブン・ヒザーム：無駄にならない善行

マッル・アッ＝ザフラーンについてのブハーリーのハディースでは、アブー・スフヤーンは一人で出たのではありません。彼とともにいたのは**ハキーム・ブン・ヒザーム** — 信者たちの母ハディージャ رضى الله عنها の甥であり、クライシュ族で最も尊敬された有力者の一人です。彼もまたマッカ征服の年にイスラームに入信しました。

スィーラの注：カアバの中で生まれた人

イマーム・ムスリムは『サヒーフ』の中で、ハキーム・ブン・ヒザームが**カアバの中で生まれ**、ジャーヒリーヤで六十年、イスラームで六十年生きたと述べています。彼は預言者となられる前からアッラーの使徒 ﷺ の親しい友であり、ザイド・ブン・ハーリサという奴隷を父方のおばハディージャに贈ったことがあります。

カアバの中で生まれたという記述は**イマーム・ムスリムと歴史家の言葉**であり、アッラーの使徒 ﷺ の言葉ではありません。ザイドの話はスィーラ書の伝承です。

参照：

『サヒーフ・ムスリム』売買の書、ハディース第 1532 番の後。

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— ハキーム・ブン・ヒザームの伝記。

イスラームに入信した後、ハキームはアッラーの使徒 ﷺ に、ジャーヒリーヤの時代に行った善行 — 施し、奴隷の解放、親族の絆を保つこと — について、それに報いがあるかどうかを尋ねました。使徒は答えられました。「**あなたは以前に行った善行とともにイスラームに入ったのだ。**」（『サヒーフ・ブハーリー』1436）。ジャーヒリーヤの時代、彼は百人の奴隷を解放し、百頭のラクダを施しました。イスラームの後も同じことをしたのです（『サヒーフ・ブハーリー』2538）。

ハキームはまた、**自尊心**について大きな教訓を学びました。彼はアッラーの使徒 ﷺ に財を求めて与えられ、また求めてまた与えられました。すると使徒は仰せられました。「**この財は緑で甘美である……上の手は下の手にまさる。**」それ以来ハキームは、アッラーの使徒 ﷺ の後、誰からも何も受け取らないと誓いました — アブー・バ

クルとウマル رضى الله عنهما の贈り物さえ断ったのです（『サヒーフ・ブハーリー』1472）。

教訓：**善行は決して無駄にならない**。ジャーヒリーヤ時代のハキームの気高い人格は彼をイスラームへ導く橋となり、イスラームはそれを完成させました。わたしたちの周りにも、心が開かれるための一つの「マッル・アッ＝ザフラーンの夜」をただ待っている善い人びとが、どれほど多くいることでしょう。

次々と続く部隊

マッカへ進む前、アッラーの使徒 ﷺ はアル＝アッバースに、馬がひしめく**狭い道**でアブー・スフヤーンを引き止め、ムスリム軍の力を目撃させるよう命じられました。部隊が次々と彼の前を通りました。**ギファール族、ジュハイナ族、サアド・ブン・フザイム族、スライム族** — そしてそのたびにアブー・スフヤーンは「彼らとわたしに何の関わりがある」と言ったのです。

その言葉には深い意味があります。これらの部族はかつてクライシュ族と**何の関わりもなく**、彼らと戦ったこともありませんでした。今、彼らは皆一つの旗の下に来ていたのです — **ラー・イラーハ・イッラッラー**（**アッラーのほかに神はなし**）の旗の下に。イスラームは、かつて分裂していた諸部族を一つにしたのです。

部隊	説明
ギファール族	アブー・ザッル・アル＝ギファーリーの部族
ジュハイナ族	マディーナの西の沿岸の部族
サアド・ブン・フザイム族	北方のクダーア系の部族
スライム族	かつてイスラームに敵対した部族
アンサール	サアド・ブン・ウバーダが率いる
部隊：アッラーの使徒 ﷺ	最も小さい部隊；旗はアッ＝ズバイルが持つ

注目すべきことに、アッラーの使徒 ﷺ の部隊は**最も小さいもの**（アカッルハー）でした。偉大な指導者は、周りに最大の部隊を必要としません。その力は、全軍の**信頼**と服従にあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アッラーがカアバを尊ばれる日」

アンサールの部隊が通ったとき、その指揮官**サアド・ブン・ウバーダ** رضى الله عنه はアブー・スフヤーンに叫びました。「**今日は殺戮の日だ。今日、カアバ（の不可侵）は解かれる！**」その言葉は、クライシュ族の手による長年の苦しみを思い出した一人の勇士の熱情から出たものでした。

しかしアッラーの使徒 ﷺ はすぐにそれを正されました。「**サアドは誤った。いや、今日はアッラーがカアバを尊ばれる日であり、カアバにキスワが掛けられる日である。**」これこそマッカ征服のメッセージです。復讐ではなく、アッラーの館の**尊厳の回復** — それを偶像から清め、預言者イブラーヒーム（彼に平安あれ）の唯一神信仰に戻すことなのです。

スィーラの注：「今日は慈悲の日」

一部のスィーラ書は、アッラーの使徒 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。「**今日は慈悲の日である（アル＝ヤウム・ヤウム・アル＝マルハマ）**」。そして使徒はサアドから旗を取り、その息子**カイス・ブン・サアド**に渡されました。旗がその家族から離れず、サアドが心を痛めないようにするためです。

「慈悲の日」という言葉は**『サヒーフ・ブハーリー』にはありません。**伝承経路が論じられているスィーラの伝承であり、一部の学者は弱いと評価しています。真正な言葉は「アッラーがカアバを尊ばれる日」です。それでも、その意味はマッカ征服の出来事全体と調和しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』— ハディース第 4280 番の注釈。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**英知をもって**過ちを正されました — サアドに恥をかかせず、アンサールの功績を軽んじず、しかし原則においては毅然として。そして使徒

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

は、ご自身の旗をマッカの上手の**アル＝ハジューン**に立てるよう命じられました。

明日、マッカは開かれるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアド・ブン・ウバーダ：アンサールの指導者

では、**サアド・ブン・ウバーダ** رضى الله عنه ― アッラーの使徒 ﷺ に正されたアンサールの旗手 ― とは誰だったのでしょうか。マッル・アッ＝ザフラーンでの彼の言葉を、彼の全体を測る物差しにすることはできません。彼はアンサールの最も偉大な人物の一人なのです。

スィーラの注：ハズラジュ族の長

サアド・ブン・ウバーダは**ハズラジュ族の長**であり、第二アカバの誓いでアッラーの使徒 ﷺ に誓いを立てた十二人の代表（ヌカバー）の一人でした。彼は**気前の良さ**で知られ、スィーラの学者たちは、彼の家ではいつも食事がふるまわれ、彼はしばしば多くのスッファの人びとを連れ帰ってもてなしたと述べています。

アッラーの使徒 ﷺ の逝去の後、彼はシャームに移り、ハウラーンで亡くなりました。これらの詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』― サアド・ブン・ウバーダの伝記。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、サアドの母が、彼の不在中に亡くなったと伝えています。サアドはアッラーの使徒 ﷺ に、母の名で施しをすれば母の益になるかどうかを尋ねました。使徒はそうだと答えられました。するとサアドは言いました。**「あなたを証人として、わたしの果樹園アル＝ミフラーフを母のための施しといたします。」**（『サヒーフ・ブハーリー』2756）。亡くなった母のために果樹園をまるごと施す ― それがサアドの魂でした。

ですから、マッル・アッ＝ザフラーンでのサアドの叫びは、その文脈で理解されなければなりません。二十年にわたりクライシュ族の手によるムスリムの苦しみを目にしてきたアンサールの勇士の熱情です。アッラーの使徒 ﷺ は**その熱情の向きを正された**のであって、消し去られたのではありません ― そしてスィーラの伝承によれば、旗はその息子カイスを通じて彼の家族にとどまったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

教訓：**高潔な人でも言葉を誤ることがある。**そして正しい忠告は、その人の尊厳を損ないません。わたしたちは人をその生涯の全体で評価します — アッラーの使徒 ﷺ が、ハーティブをそのバドルで、サアドをその献身で評価されたように。

第一部の物語の典拠

マッカ征服の物語は、二種類の典拠によって伝えられています。その違いを理解することは、**確かなこと**と**伝えられていること**とを区別する助けになります。

出来事	典拠と等級
ハーティブの手紙と試問される女章	『サヒーフ・ブハーリー』4274
一万人とともにラマダーン月に出発	『サヒーフ・ブハーリー』4276
クラーウ・アル＝ガミームで斎戒を解く	『サヒーフ・ムスリム』1114
マッル・アッ＝ザフラーンの火；アブー・スフヤーンの入信	『サヒーフ・ブハーリー』4280
ワティールでの襲撃	スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー）
アムル・ブン・サーリムの詩	スィーラ書；伝承経路は議論あり
マディーナのアブー・スフヤーン	スィーラ書
「今日は慈悲の日」	スィーラの伝承；弱いと評価

物語の主要な枠組み — 盟約の破棄、秘密保持、ハーティブの手紙、ラマダーン月の行軍、マッル・アッ＝ザフラーンの火、そしてアブー・スフヤーンの入信 — は**真正なハディースによって確定しています**。その他の詳細は物語に命を吹き込むものであり、わたしたちはそれをスィーラの伝承として誠実に伝えます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

征服の前と後

マッカ征服は単なる歴史上の出来事ではありません。クルアーンはそれを、人びとの献身を評価する分かれ目とされました。イスラームがまだ弱く数も少ないときに献身した人もいれば、イスラームが勝利し、誰もが群れをなして入ってくるようになってから献身した人もいます。どちらも良いのですが、その位階は同じではありません。

クルアーン：鉄章 57:10

アッラーは仰せられます（意味）：「あなたがたの中で、勝利（ファトフ）の前に財を施し、また戦った者は、（その後の者と）同じではない。かれらは、その後で施し、戦った者よりも位階が高い。だがアッラーは、そのどちらにも最善（の報奨）を約束された。」

参照：鉄章 57:10 — 『イブン・カスィール注釈』57:10。

注釈の注：どの「ファトフ（勝利）」か

注釈学者たちは、この節の「アル＝ファトフ」の意味について意見が分かれています。イブン・カスィールは、学者の多数はそれをマッカ征服とし、アッ＝シャアビーら一部の学者はフダイビーヤの和約 — アッラーが勝利章 48:1 で「明白な勝利」と名づけられたもの — としていると述べています。

どちらの見解も同じ意味をもたらします。困難なときの献身は、容易なときの献身よりも価値が高いということです。この見解は注釈書から引いたものであり、預言者に遡るハディースではありません。

「わたしの教友たちをののしってはならない」

ハディース：ウフド山ほどの黄金

アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه は、ハーリド・ブン・アル＝ワリードとアブドゥッラフマーン・ブン・アウフの間にちょっとした争いがあり、ハーリドがアブドゥッラフマーンをののしったと伝えています。するとアッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「誰もわたしの教友たちをののしってはならない。もしあなたがたの誰かがウフド山ほどの黄金を施したとしても、彼らの誰か一人の一ムッド（ひとすくい）にも、その半分にも及ばない。」

等級：サヒーフ（真正） — 『サヒーフ・ムスリム』2541；『サヒーフ・ブハーリー』3673にも（ハーリドとアブドゥッラフマーンの話には触れずに）。

このハディースは、マッカ征服と合わせて読むととても興味深いものです。ハーリド・ブン・アル＝ワリードは征服の数か月前にイスラームに入信しました（第 18 巻）。一方アブドゥッラフマーン・ブン・アウフは最初にイスラームに入信した八人の一人で、二度移住し、バドルに参戦しました。ハーリドは高潔な教友であり「アッラーの剣」です（第 19 巻） — しかし初期の世代と比べると、彼の献身はイスラームが強くなってからのものでした。アッラーの使徒 ﷺ は、財では追いつけない位階があることを彼に思い起こさせられたのです。

これはまた、アッラーの使徒 ﷺ がハーティブ・ブン・アビー・バルタアのような人びとを、過ちを犯したにもかかわらず、なぜあれほど尊ばれたのかを説明しています（第 12〜15 章）。ハーティブは「征服の前」に献身した人でした — ムスリムがわずか三百人ほどだったときにバドルに参戦したのです。

征服の年にイスラームに入った人びと

多くのクライシュ族の有力者が、征服の年またはその直後にイスラームに入信しました — アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ、ハキーム・ブン・ヒザーム、アブー・

スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス、アブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤ、そして第二部に登場する多くの人びとです。彼らは温かく迎えられ、地位さえ与えられました。イスラームは遅れて来た者に門を閉ざしません。それでも鉄章の節は、イスラームがまだ見知らぬものであったときにそれを担った初期の世代 — 移住者とアンサール — を重んじるよう教えています。

教訓

善いことが容易で人気のあるものになるまで待ってから加わるのではいけません。困難なときの献身 — モスクの資金がまだ足りないときの寄付、真理がまだ多くの人に受け入れられていないときにそれを擁護すること — は、アッラーのもとでより価値が高いのです。そして後から来た者は、先に来た者を敬うべきです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第一部の人物

第一部の物語には、さまざまな部族の多くの人物が登場します。次の表は、彼らが誰であり、アッラーの使徒 ﷺ とどのような関係にあり、情報の典拠は何かをまとめたものです。親族関係はしばしば誤って伝えられるため、注意深く確認しています。

人物	部族／関係	第一部での役割	典拠
アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ	クライシュ族アブドゥ・シャムス家（ウマイヤ家）；ウンム・ハビーバの父	和約更新のためマディーナへ；マッル・アッ＝ザフラーンで捕らえられ入信	『サヒーフ・ブハーリー』7、4280；スィーラ書
ウンム・ハビーバ（ラムラ・ビント・アビー・スフヤーン）	アブー・スフヤーンの娘；信者たちの母	アッラーの使徒 ﷺ の敷物を父からたたんで遠ざけた	『スナン・アビー・ダーウード』2107；スィーラ書
アムル・ブン・サーリム・アル＝フザーイー	フザーア族（カアブ家）	ワティールの襲撃の後、嘆願の詩を携えてマディーナへ	スィーラ書
ブダイル・ブン・ワルカー	フザーア族	アッラーの使徒 ﷺ に訴えた；のちにマッル・アッ＝ザフラーンでアブー・スフヤーンとともに出た	『サヒーフ・ブハーリー』2731、4280
ナウファル・ブン・ムアーウィヤ・アッ＝ディーリー	ディール家、バクル・ブン・アブドゥ・マナート族（キナーナ族）	ワティールでのフザーア族へのバクル族の襲撃を率いた	スィーラ書
ハーティブ・ブン・アビー・バルタア	ラフム族の出身；アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー家（クライシュ族）の同盟者	クライシュ族に手紙を書いた；バドルの人ゆえに赦された	『サヒーフ・ブハーリー』3007、4274

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族／関係	第一部での役割	典拠
アリー・ブン・アビー・ターリブ	ハーシム家；いとこ ― アッラーの使徒 ﷺ	ラウダト・ハーフでハーティブの手紙を押収するため遣わされた	『サヒーフ・ブハーリー』3007
アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワーム	アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー家；サフィーヤ・ビント・アブドゥル・ムッタリブの子 ― いとこ：アッラーの使徒 ﷺ	アリーとともに手紙を押収；部隊の旗手 ― アッラーの使徒 ﷺ	『サヒーフ・ブハーリー』3007、4280
アル＝ミクダード・ブン・アムル（ブン・アル＝アスワド）	バフラー族（クダーア系）の出身；ズフラ家の同盟者	アリー、アッ＝ズバイルとともにラウダト・ハーフへ	『サヒーフ・ブハーリー』3007
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	ハーシム家；父方のおじ ― アッラーの使徒 ﷺ	移住し、アル＝ジュフファで使徒に会う；アブー・スフヤーンを使徒のもとへ連れて行った	『サヒーフ・ムスリム』983；『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書
アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス	ハーシム家；アル＝ハーリス・ブン・アブドゥル・ムッタリブの子 ― アッラーの使徒 ﷺ のいとこであり、乳兄弟でもある（ハリーマに授乳された）	ニーク・アル＝ウカーブで悔悟して来た	スィーラ書；『サヒーフ・ムスリム』1775（フナインにて）
アブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤ	マフズーム家；アーティカ・ビント・アブドゥル・ムッタリブの子 ― アッラーの使徒 ﷺ のいとこ；ウンム・サラマの異母兄弟（父を同じくする）	アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスとともに悔悟して来た	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

人物	部族／関係	第一部での役割	典拠
ハキーム・ブン・ヒザーム	アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー家；ハディージャ رضي الله عنها の甥（彼女の兄弟ヒザームの子）	マッル・アッ＝ザフラーンでアブー・スフヤーン、ブダイルとともに出た	『サヒーフ・ブハーリー』4280、1436
サアド・ブン・ウバーダ	ハズラジュ族（サーイダ家）；ハズラジュ族の長	アンサールの旗手；「殺戮の日」のゆえに正された	『サヒーフ・ブハーリー』4280
アブー・ルフム・クルスーム・ブン・フサイン・アル＝ギファーリー	ギファール族	アッラーの使徒 ﷺ の出陣中、マディーナの守りに任命された	スィーラ書（イブン・イスハーク）

スィーラの注：手紙を運んだ女性

真正なハディースでは、ハーティブの手紙を運んだ女性の名は挙げられていません。イブン・イスハークはその名をサーラとし、アブドゥル・ムッタリブ家の一部によって解放された女奴隷（マウラー）で、援助を求めてマディーナに来ていたと述べています。アル＝ワーキディーは別の名を挙げています。この名と詳細はスィーラ書の伝承であり、真正な話の核心には影響しません。

参照：イブン・ヒシャーム『預言者伝』— マッカ征服の章；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』、ハディース第 3007 番の注釈。

教訓

第一部の人物たちは、さまざまな背景から来ています。同盟者、敵、親族、そして教友。過ちを犯した者、遅れて来た者、かつて苦しめた者もいます。アッラーの使徒 ﷺ は一人ひとりにその状況に応じて接せられました — 裏切りには毅然と、過ちには公正に、悔悟した者には寛大に。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナからマッル・アッ＝ザフラーンまでの地名

第 16 章では、マディーナからマッカへの一万の軍勢の道のりを簡単に述べました。この章では、第一部の物語に出てくる地名 — マッカ南方のワティールから町の外れのアル＝ハジューンまで — を集め、読者がその行程を思い描けるようにします。

ハディース：アル＝カディードまで斎戒された

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がラマダーン月に征服の遠征に出発されたと伝えています。使徒はアル＝カディード — クダイドとウスファーンの間の水場 — に着くまで斎戒し、そこで斎戒を解かれ、その月が終わるまで再び斎戒されませんでした。

等級：サヒーフ（真正） — 『サヒーフ・ブハーリー』4275；『サヒーフ・ブハーリー』1944 にも。

場所	出来事	今日（推定）	典拠
ワティール	バクル族に襲われたフザーア族の水場	マッカの南方；正確な位置は特定できない	スィーラ書；ヤークート『諸国辞典』
ラウダト・ハーフ	運び手の女性からハーティブの手紙が押収された	マッカとマディーナの間、マディーナ寄り	『サヒーフ・ブハーリー』3007；『ファトフ・アル＝バーリー』
アル＝ジュフファ	移住の途中のアル＝アッバースがアッラーの使徒 ﷺ に会った	シャームとエジプトの人びとのミーカート、ラービグ近く	スィーラ書；サウディペディア「Miqat al-Juhfah」

場所	出来事	今日（推定）	典拠
ニーク・アル＝ウカーブ	アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスとアブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤが悔悟して来た	マッカとマディーナの間の山道；正確な位置は不確か	スィーラ書
クダイド	行軍の途中で軍が通過	ラービグとフライスの間	スィーラ書
アル＝カディード	アッラーの使徒 ﷺ が斎戒を解かれた	クダイドとウスファーンの間の水場	『サヒーフ・ブハーリー』4275、1944
クラーウ・アル＝ガミーム	斎戒を解く；斎戒を続けた者への戒め	ウスファーン近くの谷	『サヒーフ・ムスリム』1114
ウスファーン	アッラーの使徒 ﷺ が人びとに見えるよう昼間に飲まれた	マッカの北、マディーナへの古い道沿いの町	『サヒーフ・ブハーリー』4279
マッル・アッ＝ザフラーン	一万の火；アブー・スフヤーンの入信	ワーディー・ファーティマとアル＝ジュムームの地域、マッカの北西	『サヒーフ・ブハーリー』4280
アル＝ハジューン	アッラーの使徒 ﷺ の旗が立てられた場所	マッカの上手（北部）、アル＝マアラー墓地の近く	『サヒーフ・ブハーリー』4280

地理の注

真正なハディースに出てくる地名は、ラウダト・ハーフ、アル＝カディード、クラーウ・アル＝ガミーム、ウスファーン、マッル・アッ＝ザフラーン、アル＝ハジューンです。その他の地名はスィーラ書に出てきます。今日の地名との対応は、ヤークート・アル＝ハマウィーの『諸国辞典』などの古典的地理書に基づく推定であり、距離は道筋によって異なることがあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

この道筋のそれぞれの場所に、一つの教訓があります。ラウダト・ハーフでは秘密が守られ、アル＝ジュフファとニーク・アル＝ウカーブでは悔悟の門が開かれ、アル＝カディードとウスファーンでは宗教が容易にされ、マッル・アッ＝ザフラーンでは硬い心が和らげられました。マッカへの旅は、軍の旅である前に、心の旅だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第一部から得られる法規定

マッカ征服の前の出来事は、単なる物語ではなく、法規定の源でもあります。イマーム・ブハーリー自身、ハーティブの手紙のハディースをジハードの書の「密偵（アル＝ジャースース）」の章に置いており、学者たちがそこから規定を導き出したことを示しています。

ハディース：密偵の章

アリー رضى الله عنه は言いました。アッラーの使徒 ﷺ は、わたしとアッ＝ズバイルとアル＝ミクダードを、一人の女性から一通の手紙を取り上げるためラウダト・ハーフへ遣わされました。その手紙が持って来られると、それはハーティブ・ブン・アビー・バルタアからマッカの多神教徒の何人かに宛てたもので、アッラーの使徒 ﷺ の事柄の一部を彼らに知らせていました。ウマルが彼の首をはねる許しを求めると、使徒は仰せられました。「彼はバドルに参戦した。あなたに何がわかろう。アッラーはバドルの人びとをご覧になり、『あなたがたの望むことをせよ。われはすでにあなたがたを赦した』と仰せられたのかもしれない。」

等級：サヒーフ（真正） ― 『サヒーフ・ブハーリー』3007、ジハードの書、密偵の章；『サヒーフ・ブハーリー』4274、『サヒーフ・ムスリム』2494 にも。

問題	規定／指針	根拠
相手側が盟約を破る	盟約は相手の裏切りによって無効となる；裏切られた側はもはや拘束されない	悔悟章 9:12–13；スィーラ書
裏切りが起こる前にそれを恐れる場合	不意打ちではなく、盟約の破棄を公然と通告しなければならない	戦利品章 8:58；『サヒーフ・ブハーリー』3188
戦いの計画を秘密にする	許され、むしろ求められる；戦いの計略は許されるが、約束の破棄は許されない	『サヒーフ・ブハーリー』2947、3030

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

問題	規定／指針	根拠
ムスリムが敵のために密偵を働く	禁じられた大罪；その処罰は統治者に委ねられる	『サヒーフ・ブハーリー』3007；試問される女章 60:1
罰する前に調べる	被告の説明を聞かなければならない	「ハーティブよ、これは何か。」— 『サヒーフ・ブハーリー』4274
疑わしい者の持ち物を調べる	安全上の緊急時には許される。ただし身体の隠すべき部分と尊厳を守ること	『サヒーフ・ブハーリー』3007
旅の途中の斎戒	斎戒することも解くことも許される。負担が重いときや敵に立ち向かう力のためには、解く方がまさる	『サヒーフ・ブハーリー』4275；『サヒーフ・ムスリム』1114
かつて敵対した者の入信を受け入れる	外面によって受け入れ、心の内はアッラーに委ねる	『サヒーフ・ブハーリー』4280；戦利品章 8:38

法学の注：ムスリムの密偵の処罰

学者たちは、敵のために密偵を働くことが禁じられていることで一致しています。その処罰については意見が分かれています。『ファトフ・アル＝バーリー』のイブン・ハジャルと『サヒーフ・ムスリム注釈』のアン＝ナワウィーの要約によれば、イマーム・アッ＝シャーフィイーと多くの学者は、密偵を働いたムスリムは死刑にはされず、適切なタアズィール（裁量刑）が科されると考えています。一方、マーリク派の一部の学者は、統治者がその判断で死刑を科すことができると考えています。

ハーティブの話は、統治者が行為者の状況 — その意図、善行の歴史、行為の影響 — を見なければならないことを示しています。この要約は注釈書によるものであり、詳細は法学書で論じられています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

イスラームは毅然さと公正とを結びつけます。盟約の裏切りには報いがありますが、イスラーム自身が裏切りを始めることはありません。国の秘密は守られますが、被告の言い分は聞かれます。そして崇拝においては、この宗教は奮闘する者に容易さを与えるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第一部の年表

この表は、第一部の出来事を順に並べたものです。正確な日付の多くはスィーラ書によるもので、その一部は歴史家の間で意見が分かれています。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月	フダイビーヤの和約；フザーア族はアッラーの使徒 ﷺ と、バクル族はクライシュ族と同盟	『サヒーフ・ブハーリー』2731；スィーラ書
休戦期間中	ヘラクレイオスの前のアブー・スフヤーン：「彼は約束を破ったことがあるか」	『サヒーフ・ブハーリー』7
ヒジュラ暦 8 年シャアバーン月	クライシュ族の一部に助けられたバクル族が、ワティールでフザーア族を襲う	スィーラ書
襲撃の後	アムル・ブン・サーリムとブダイル・ブン・ワルカーがマディーナに来る	スィーラ書
その後	アブー・スフヤーンが和約更新のためマディーナへ；手ぶらで帰る	スィーラ書
ヒジュラ暦 8 年シャアバーン月末〜ラマダーン月初め	秘密裏の準備；知らせがクライシュ族に届かないようにとの祈り	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』2947
出発の前	ラウダト・ハーフでハーティブの手紙が押収される；試問される女章の啓示	『サヒーフ・ブハーリー』3007、4274
ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月 10 日（イブン・イスハークによる）	アッラーの使徒 ﷺ が一万人とともに出発	『サヒーフ・ブハーリー』4276；日付：スィーラ書
旅の途中	アル＝アッバースがアル＝ジュフファで使徒に会う	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
旅の途中	アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスとアブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤがニーク・アル＝ウカーブで悔悟する	スィーラ書
アル＝カディードとクラーウ・アル＝ガミームにて	アッラーの使徒 ﷺ が斎戒を解かれる	『サヒーフ・ブハーリー』4275；『サヒーフ・ムスリム』1114
マッル・アッ＝ザフラーンの夜	一万の火；アブー・スフヤーン、ハキーム、ブダイルが捕らえられる；アブー・スフヤーンの入信	『サヒーフ・ブハーリー』4280
翌朝	部隊が次々とアブー・スフヤーンの前を通る；サアド・ブン・ウバーダが正される	『サヒーフ・ブハーリー』4280
ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月 17〜20 日ごろ	軍がマッカに入る（第 21 巻）；正確な日付は諸説あり	『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書

教訓

この年表は、裏切りが起こった後、出来事がいかに速く動いたかを示しています — ワティールからマッカまで約一か月です。しかしその速さの陰には、二年間約束を守り続けた忍耐がありました。勝利は、わたしたちの望む時ではなく、アッラーの定められた時に訪れるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカ征服（一）に関するよくある質問

1.「ファトフ」とは何を意味するのか。

「ファトフ」とは開くこと（開放）を意味します。スィーラの学者たちは、この出来事をファトフ・マッカ ― マッカの開放 ― と名づけました。町がほとんど流血なしに開かれ、その門がイスラームに開かれたからです。援助章はそれを「アル＝ファトフ」と呼んでいます（援助章 110:1；第 31 章）。

2. なぜフダイビーヤの和約は無効とみなされたのか。

クライシュ族の同盟者であるバクル族が、アッラーの使徒 ﷺ の同盟者であるフザーア族を襲い、クライシュ族の有力者の一部が武器と人で彼らを助けたからです。これは、両者とその同盟者が互いに戦わないという和約の条件に反していました（第 4〜5 章；スィーラ書）。

3. アッラーの使徒 ﷺ は通告なしに不意打ちをされたのか。

裏切りはクライシュ族自身の側から来たものであり、アブー・スフヤーンがマディーナに来たのも、盟約が破られたと知っていたからです（第 7 章）。戦利品章 8:58 の不意打ちの禁止は、裏切りを恐れているだけの場合のことです。この場合、裏切りは実際に起こっていたのです（第 9 章と第 34 章）。

4. なぜハーティブは罰せられなかったのか。

彼は自分の意図を正直に説明し、背教しておらず、バドルの人だったからです。アッラーの使徒 ﷺ は彼の説明を受け入れ、ウマルが彼を殺すことを禁じられました（『サヒーフ・ブハーリー』3007、4274；第 12〜15 章）。

5. ムスリムが敵に秘密を漏らすことの規定は何か。

禁じられており、大罪に含まれます。その処罰は法学書で詳しく論じられ、統治者に委ねられます（第 34 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

6. ムスリム軍の人数はどれほどだったのか。

『サヒーフ・ブハーリー』4276 にあるとおり、一万人です。一部のスィーラ書は一万二千人としていますが、これはその後に加わった者を含めた数で、フナインの戦いについてより多く挙げられる数です。

7. なぜアッラーの使徒ﷺは旅の途中で斎戒を解かれたのか。

軍に力を与え、人びとに宗教の容易さを示すためです。使徒は人びとの前で飲まれ、皆がそれに続けるようにされました（『サヒーフ・ブハーリー』4275、4279；『サヒーフ・ムスリム』1114；第 17〜18 章）。

8. 軍はいつ出発し、いつマッカに入ったのか。

イブン・イスハークは、アッラーの使徒 ﷺ がヒジュラ暦 8 年ラマダーン月 10 日に出発されたと述べています。マッカに入った日付は諸説あり、伝承によって 17 日から 20 日の間です。確かなのは、それがラマダーン月に起こったことです（『サヒーフ・ブハーリー』4276）。

9. アブー・スフヤーンの入信は誠実だったのか。

わたしたちは外面を受け入れ、心の内はアッラーに委ねます。アッラーの使徒 ﷺ が彼のシャハーダを受け入れられたように（『サヒーフ・ブハーリー』4280）。スィーラ書は、彼がその後フナインとターイフに参加し、ターイフで片目を失ったと述べています。スンナ派の学者たちは、彼を一人の教友として敬っています。

10. アッラーの使徒ﷺが出陣されている間、誰がマディーナを守ったのか。

イブン・イスハークはアブー・ルフム・クルスーム・ブン・フサイン・アル＝ギファーリーを挙げています。他の一部の伝承はイブン・ウンム・マクトゥームを挙げています。これはスィーラ書の情報です（第 32 章）。

11. 鉄章 57:10 の「征服の前」とは誰を指すのか。

征服の前に財と命を捧げた人びとです — 注釈学者の多数によればマッカ征服の前、一部の学者によればフダイビーヤの前です。すべての者に善が約束されていますが、彼らの位階はより高いのです（第 31 章）。

12. 第二部では何が語られるのか。

第 21 巻は開放の日そのものを語ります。頭を垂れてのアッラーの使徒ﷺの入城、安全の門、カアバの周りの偶像の破壊、カアバの鍵、ビラールのアザーン、「今日あなたがたに咎めはない」という言葉、女性たちの誓い、そして使徒がマッカで過ごされた十九日間です。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、そして学者の見解を区別するよう思い起こさせてくれます。第一部の物語の枠組みは真正なハディースによって確定しており、その詳細はそれぞれの等級に応じて誠実に伝えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

マッカ征服の第一部は**準備**の物語です — 周到で、秘密裏で、慈悲に満ちた準備です。大きな勝利は突然訪れるのではありません。それは二年間の忍耐、約束の厳守、そして指導者の英知の上に築かれるのです。

教訓	第一部から
約束を守る	イスラームは裏切りを始めない
同盟者への忠誠	フザーア族の訴えに応える
信仰は血縁にまさる	ウンム・ハビーバが敷物をたたむ
戦略と秘密保持	「戦いとは策略である」
罰する前に公正であれ	「ハーティブよ、これは何か」
善行は過ちを覆う	バドルの人びとは赦される
宗教の容易さ	旅の途中で斎戒を解く
敵を赦す	「今日あなたがたに咎めはない」

これらすべては、援助章におけるアッラーの約束への序章です。「**アッラーの援助と勝利が来て……**」（援助章 110:1） — 『イブン・カスィール注釈』110:1。

わたしたちの生活の中のマッカ征服

わたしたち一人ひとりの内には「マッカ」があります — 現世の偶像から清められるべき心です。第一部は、その開放には**準備と忍耐と慈悲**が必要であることを教えています。約束を守り、苦しめた者を赦し、アッラーへの服従を優先することです。

イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**第 21 巻 — マッカ征服（二）**へと続きます。頭を垂れてのアッラーの使徒 ﷺ のマッカ入城、安全の宣言、カアバの周りの 360 体の偶像の破壊、カアバの上でのビラールのアザーン、そしてマッカの住民への大いなる赦しを語ります。アッラーこそ最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:185；戦利品章 8:58；悔悟章 9:12–13；ユースフ章 12:91–92；蜜蜂章 16:91；試問される女章 60:1、60:8；援助章 110）。https://tafsir.app/ibn-katheer/60/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2731、2947、3030、3188、3983、4274、4276、4279、4280。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』983、1114、1775、1780、2495。https://sunnah.com/muslim

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章。

アル＝ワーキディー『遠征の書』；イブン・サアド『大列伝』；アル＝バイハキー『預言者性の証拠』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』— マッカ征服；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』— 遠征の書、マッカ征服の遠征の章；『教友識別の書（アル＝イサーバ）』。アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』— 斎戒の書。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— マッカ征服の章。

一般の歴史

ウィキペディア「Conquest of Mecca」。https://en.wikipedia.org/wiki/Conquest_of_Mecca

Wikipedia「Treaty of Hudaybiyyah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Treaty_of_Hudaybiyyah

ウィキペディア「Hatib ibn Abi Balta'a」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hatib_ibn_Abi_Balta%27a

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウィキペディア「Abu Sufyan ibn Harb」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Sufyan_ibn_Harb

ウィキペディア「Al-Abbas ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Abbas_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「Banu Khuza'a」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Khuza%27a

ウィキペディア「Al-Mumtahanah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Mumtahanah

ハディースと追加の典拠

鉄章 57:10（征服の前と後）。https://quran.com/57:10

『サヒーフ・ムスリム』2541（ハーリドとアブドゥッラフマーン・ブン・アウフ；「わたしの教友たちをののしってはならない」）。https://sunnah.com/muslim:2541a

『サヒーフ・ブハーリー』3673（「わたしの教友たちをののしってはならない」）。https://sunnah.com/bukhari:3673

『サヒーフ・ブハーリー』4275（アル＝カディードまで斎戒）。https://sunnah.com/bukhari:4275

『サヒーフ・ブハーリー』1944（クダイドとウスファーンの間のアル＝カディード）。https://sunnah.com/bukhari:1944

『サヒーフ・ブハーリー』3007（密偵の章 — ハーティブの手紙）。https://sunnah.com/bukhari:3007

『サヒーフ・ムスリム』2494（ハーティブの話）。https://sunnah.com/muslim:2494

サウディペディア「Miqat al-Juhfah」。https://saudipedia.com/en/article/3247/religion/miqat-al-juhfah

『サヒーフ・ブハーリー』2947（遠征の行き先を秘密にする）。https://sunnah.com/bukhari:2947

『サヒーフ・ブハーリー』4280（マッル・アッ＝ザフラーン）。https://sunnah.com/bukhari:4280

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience